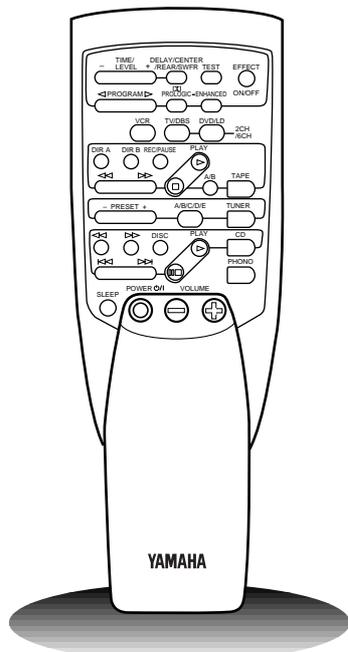
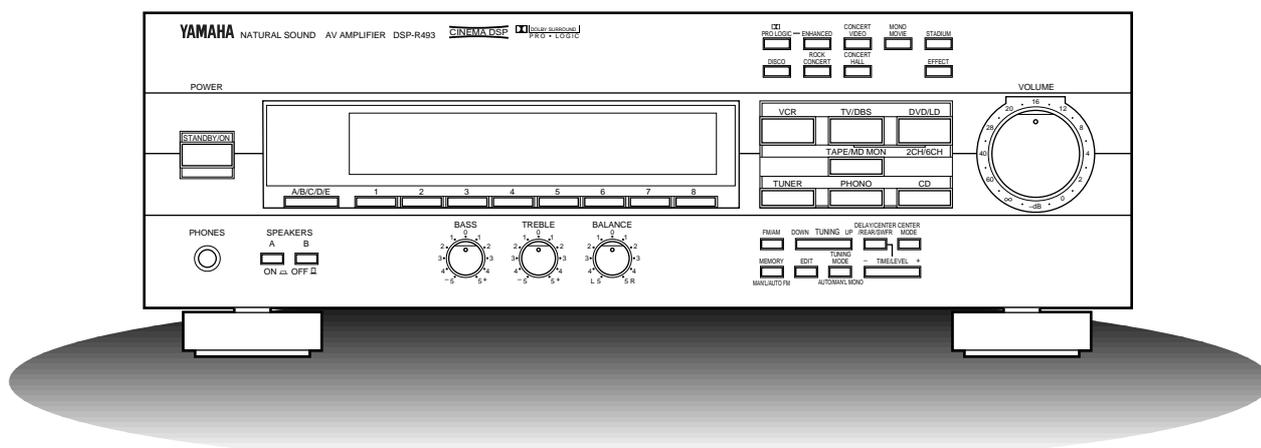


# YAMAHA

## NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

# DSP-R493

### 取扱説明書



このたびは、YAMAHA AVアンプDSP-R493をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

DSP-R493の優れた性能を充分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

ご使用前に必ずお読みください

本機は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

# 安全上のご注意 (安全に正しくお使いいただくために)

ご使用の前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。またお読みになったあと、いつでも取り出せる所に必ず保存してください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



## 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置される時		使用中に異常が発生した時		
	<p>本機に水を入れたり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。表示された電源電圧交流100V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。</p> <p>電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。</p>		<p>電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>	
	<p>風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。</p>	 	<p>万一機器の内部に水や異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。</p>	
ご使用になるとき			<p>万一、本機を落としたり、キャビネットを損傷した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>	
	<p>本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。</p> <p>本機の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。</p> <p>電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。</p>			<p>絵表示の例</p>
	<p>本機のキャビネットは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。本機を改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p>			<p>指を挟まれな いよう注意</p> <p>分解禁止</p> <p>記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。</p> <p>⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。</p> <p>記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。</p>



# 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

設置されるとき		ご使用になるとき		
	<p>湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。</p> <p>電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。</p> <p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。</p> <p>本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがありますので、次の点にご注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。</li> <li>・テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。</li> </ul>		<p>接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。</p> <p>電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。</p> <p>付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。</p>	
	<p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。</p> <p>本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがありますので、次の点にご注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。</li> <li>・テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。</li> </ul>			<p>指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。</p>
	<p>本機を設置する場合は、放熱をよくするために他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、本機の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。</p>			<p>旅行などで長期間本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。</p>
	<p>本機を設置する場合は、放熱をよくするために他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、本機の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。</p>		<p>お手入れについては、お取り扱いについて</p> <p>1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。本機の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。</p>	
	<p>移動する場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。</p>		<p>お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。</p>	

本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されております。従って信号発生器やテストディスクの信号などを再生しますと、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となることがあります。

# 特長

## CINEMA DSP YSS-203を搭載、多彩な音場効果が楽しめます

大規模音場処理のキーデバイスとして、YSS-203を搭載しました。YSS-203はヤマハ独自のCINEMA DSP処理に必要な機能を内蔵しており、ドルビー\*デジタルプロ・ロジックデコーダ及び、高度なDSP音場処理をワンチップで実現しています。最新のドルビーサラウンド映画からモノラルの名画まで、またコンサート、ディスコ等の幅広いソフトを多彩な音場効果で楽しめます。

## オールディスクリット構成の高音質パワーアンプを搭載

YSS-203の搭載により高度な音場処理を実現しながら実装体積を大幅に縮小できました。DSP-R493の内部は強力な電源部とオーディオ的に熟慮された高音質パワーアンプを中心にレイアウトされています。エフェクトアンプに至るまでオーディオクオリティを重視して設計。本格的5チャンネルCINEMA DSPをフルスペックで楽しめます。

## ドルビーデジタル(AC-3)対応6チャンネル入力

ドルビーデジタル(AC-3)5・1チャンネル音声出力に対応した6チャンネルディスクリット入力端子を装備しています。この端子はハイビジョンテレビやMUSEデコーダの音声出力も接続可能です。

## FM/AMチューナー搭載

DSP-R493が搭載したFM/AMチューナーは、40局のプリセットが可能、FM多局化時代に対応しています。また、FM局のオートプリセット機能、プリセット局のエディット機能など、多彩な機能を装備しています。

\*ドルビーサラウンドプロ・ロジックは、ドルビーラボラトリーズ・ライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY、AC-3、PRO LOGIC及びダブルD記号DDはドルビーラボラトリーズ・ライセンシングコーポレーションの商標です。



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。  
音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに関心を配り快適な生活環境を守りましょう。

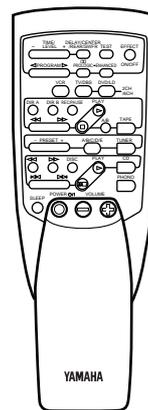
# 目次

安全上のご注意	2
特長	4
音場効果をお楽しみいただくために	5
スピーカーインピーダンスについて	7
接続のしかた	8
各部の名称とはたらき	16
リモコンの準備	19
再生の前に	20
再生する	22
録音/録画について	23
音場効果を楽しむ	24
ラジオを聞く	27
スリープタイマー	30
タイマー再生/録音(録画)	31
故障かなと思ったら	32
参考仕様	34
ヤマハホットラインサービスネットワーク	裏表紙

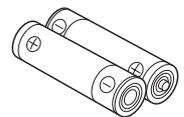
はじめに、次のことをお確かめください。

- 1 保証書にお買い上げ店名を記入してもらいましたか?
- 2 付属品はすべてそろっていますか?

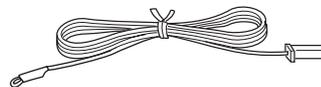
リモコン



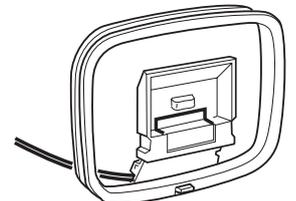
単3乾電池2本



FM簡易アンテナ



AMループアンテナ



# 音場効果をお楽しみいただくために

本機にはセンタースピーカー、リアスピーカーを設置して楽しむ音場処理機能があります。音場効果を十分にお楽しみいただくため、ご使用前にこの項目をお読みになり、適切なスピーカーシステムを設置してください。

## スピーカーシステムについて

音場効果を十分にお楽しみいただくために、スピーカーの基本構成はメイン左右（メインの音と効果音）、サラウンド（リア）左右（サラウンド音と効果音）、そしてセンター（セリフなど）の合計5本のスピーカーが必要となります。さらに、重低音や臨場感を増すためにサブウーファーの追加をおすすめします。ご使用前にこの項目をお読みになり、適切なスピーカーシステムを設置してください。

再生スピーカーの音色の違いによって、移動する主人公のセリフが不自然に変わることがないように、なるべく音色の揃ったスピーカーをお使いください。

### サブウーファー設置の効果について

サブウーファーは各チャンネルの低音域を出力するだけでなく、ドルビーデジタル（AC-3）対応DVDプレーヤーなどのドルビーデジタル5.1チャンネル信号に含まれる低域効果音を有効的に出力します。ドルビーデジタル（AC-3）多チャンネル効果を十分に引き出すために、サブウーファーの設置をおすすめします。

### ご注意

電源を入れる前に、スピーカーシステムのインピーダンスに応じて背面のIMPEDANCE SELECTORを必ず設定してください（7ページ）。設定を誤るとスピーカーや本機の故障の原因となることがありますのでご注意ください。

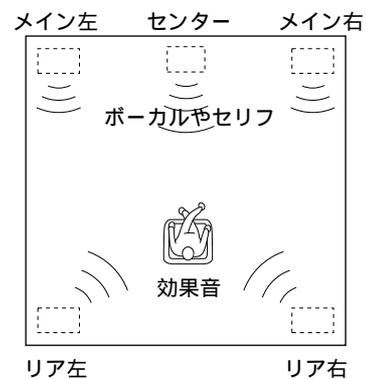
6CH DISCRETE INPUT端子に接続した機器を再生するときは、必ずセンタースピーカーを設置してください。（右図の5スピーカーシステムを参照。）また、アンプ内蔵のサブウーファーをSUB WOOFER OUTPUT端子に接続してください。

## スピーカーシステムを選ぶ

下記を参考にして、5スピーカーシステムまたは4スピーカーシステムのいずれかを選びます。スピーカーシステムに応じてセンターモードが決まります。

### 5スピーカーシステム（センタースピーカーを使用する）

従来の2チャンネルステレオで使用する2本の左右メインスピーカーに加えて、ドルビープロ・ロジックサラウンド効果を最大限に発揮させるためのセンタースピーカー、およびリスナーの後方に設置する左右リアスピーカーの合計5本のスピーカーを使用します。

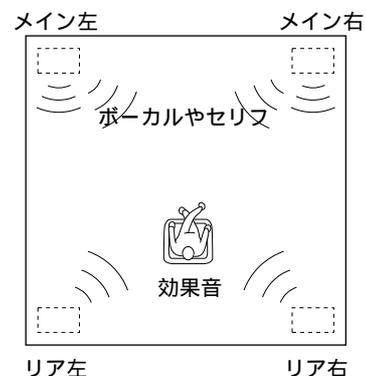


メインスピーカーの間隔が広い場合には、センタースピーカーの使用はセリフの定位などの改善に効果的です。使用するセンタースピーカーに合わせてセンターモードをNORMALまたはWIDEに設定します（20ページ）。

### 4スピーカーシステム（センタースピーカーを使用しない）

左右のメインスピーカー2本と、左右のリアスピーカー2本合計4本のスピーカーを使用するシステムです。

ドルビープロ・ロジック再生時のセンターチャンネル信号は、左右のメインスピーカーが再生します。



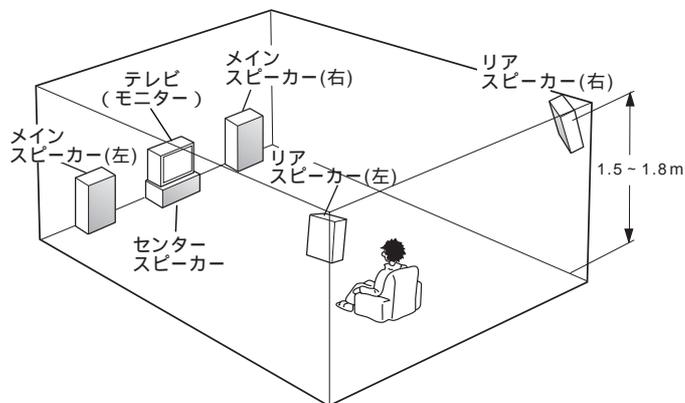
TVの両側にメインスピーカーを設置するような、スピーカーの間隔が比較的小さい場合は、センタースピーカーを使用しなくても十分な効果が得られます。

センターモードはPHANTOMに設定します（20ページ）。

# 音場効果をお楽しみいただくために

## スピーカーの配置

### 5スピーカーシステムの配置例



スピーカーは上図のような位置関係が理想ですが、厳密に揃わなくても十分な効果が得られます。

#### メインスピーカー

従来のステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。テレビをはさんで設置する場合は、左右のスピーカーとテレビの距離を同じにします。スクリーンを設置している場合は、スクリーンの両脇に設置してください。

#### センタースピーカー

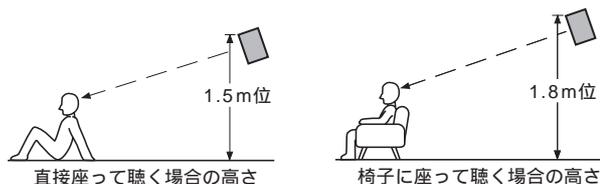
テレビを設置している場合は、テレビ画面とスピーカーの前縁を揃え、テレビの下または上など、できるだけテレビ画面に近いところに設置してください。スクリーンを設置している場合は、スクリーンの下中央に設置してください。

センタースピーカーは、上記のように1本設置することをおすすめしますが、テレビの両脇にセンタースピーカーを2本設置することもできます（デュアルセンタースピーカー）。

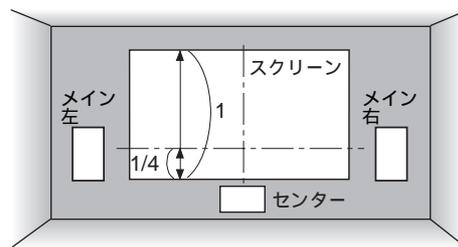
#### リアスピーカー

上図の配置例のようにメインスピーカーより左右の間隔を開けた後方斜めに配置し、スピーカーをリスニングポイントに向けてください。

スピーカーの高さは、床に直接座って聴く場合床から1.5m位、椅子に座って聴く場合1.8m位が適当です。



### スクリーン使用時の設置例



メイン左、右は、スクリーン下辺から1/4の高さが適当です。  
センタースピーカーは、スクリーンのすぐ下中央に設置します。1本使いが定位の点で効果が得られます。

#### ご注意

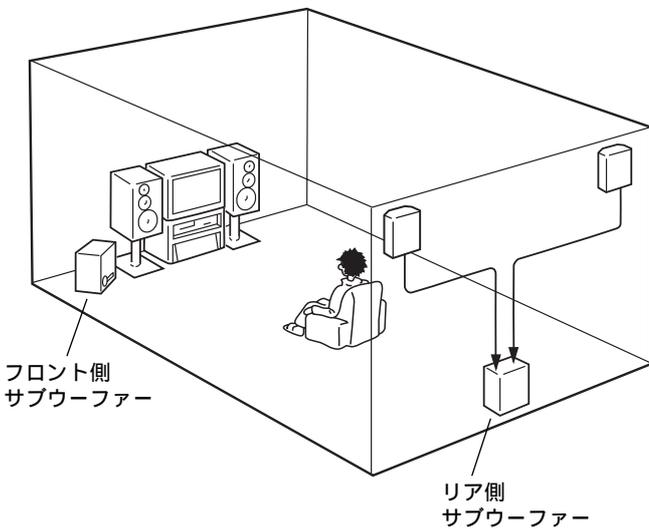
スピーカーによっては、テレビ（モニター）の画面が乱れることがあります。画面近くに設置するセンタースピーカーやスーパーウーファーには、防磁型スピーカーの使用をお勧めします。（テレビの画面が乱れる場合は、テレビとスピーカーを離してください）

## サブウーファーについて

スピーカーシステムにサブウーファーを加えると、映画再生時の迫力や臨場感を大きく改善することができます。メインスピーカーに比較的大型のスピーカーを使用する場合でも、良質のサブウーファーを追加することで大きな効果が得られます。1台目はフロント側に、2台目をリア側に設置することをお勧めします。

フロント側サブウーファーは、メイン左右とセンターチャンネルの200Hz以下の信号をミックスして出力します。インプットセクターのDVD/LDまたはTV/DBSで6CH入力を選んでいるときは、SUB WOOFER INPUT端子に入った信号がそのまま出力されます。

映画ではリアチャンネル側の低音再生も非常に重要です。メイン側の低音とリア側の低音が再現されると迫力だけでなく、特にCINEMA DSP音場プログラムのリアリティが大きく改善されます。



フロント側サブウーファー

リア側サブウーファー

### フロント側サブウーファー

#### 配置

左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内振りに設置します。低音の聞こえ方は、スピーカーを置く位置と聞く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試しください。

#### 接続

本機背面のサブウーファー用のSUB WOOFER 出力端子に接続します(12ページ)。

### リア側サブウーファー

#### 配置

視聴位置より後方に設置します。左右の位置は関係しません。

#### 接続

リア専用のサブウーファーは、リアスピーカーのL、R端子からスピーカーコードで接続します。詳しくは、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

どのようなスピーカーシステムにするかを決めたら、接続に入りますが、その前に、お使いになるスピーカーシステムのインピーダンスに応じて背面のIMPEDANCE SELECTORを切り換えます。

### ご注意

インピーダンスセクターを切り換えるときは、必ず電源を切った状態で切り換えてください。電源が入った状態で切り換えると故障の原因になります。正しく設定しないと本機やスピーカーの故障の原因となる場合があります。

使用するスピーカーのインピーダンス( )

上側にセットする場合	
リア	6 以上/1本
センター	1本使用: 6 以上 2本使用: 3 以上/1本
メイン	AまたはB: 4 以上/1本 A+B: 8 以上/1本

下側にセットする場合	
リア	8 以上/1本
センター	1本使用: 8 以上 2本使用: 4 以上/1本
メイン	AまたはB: 8 以上/1本 A+B: 16 以上/1本

IMPEDANCE SELECTOR  
必ず電源を切って操作の事

REAR	6Ω MIN./SPEAKER
CENTER SINGLE	6Ω MIN./SPEAKER
DUAL	3Ω MIN./SPEAKER
MAIN A OR B	4Ω MIN./SPEAKER
A+B	8Ω MIN./SPEAKER

REAR	8Ω MIN./SPEAKER
CENTER SINGLE	8Ω MIN./SPEAKER
DUAL	4Ω MIN./SPEAKER
MAIN A OR B	8Ω MIN./SPEAKER
A+B	16Ω MIN./SPEAKER

### 切り換えの基準

使用するスピーカーのインピーダンス( )と同じか、それよりも低い表示側にセットする。

インピーダンス表示より低いスピーカーは使えない。

例: スピーカーシステムがメイン4、センター6、リア4の場合、IMPEDANCE SELECTORを上側に切り換えても4のリアスピーカーは使えません。6以上のインピーダンスを持つリアスピーカーを使用してください。

# 接続のしかた

## 正しい接続のために

接続の際は、必ず本機および接続する機器の電源を切ってください。

ヤマハCDプレーヤー、テープデッキなどとシステム接続する場合は、各機器と本機と同じ番号（**1**、**3** など）のついた端子どうしを接続してください。

接続する機器によって接続方法や端子名が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。ピンジャックの入/出力端子は、信号別に色分けされています。

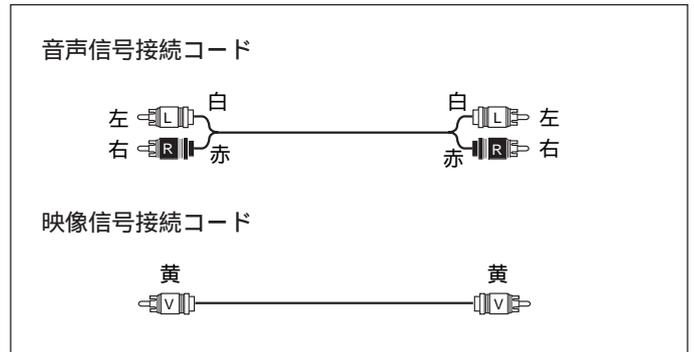
- ・音声信号の左(L)チャンネル：白色
- ・音声信号の右(R)チャンネル：赤色
- ・6CH DISCRETE INPUT信号およびOUTPUT信号：黒色
- ・映像信号：黄色

入/出力端子の接続には、市販のピンプラグコードをご用意ください。

本機が他の機器（テレビなど）に影響を与えるような場合は、本機と他の機器の設置場所を離してください。

接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

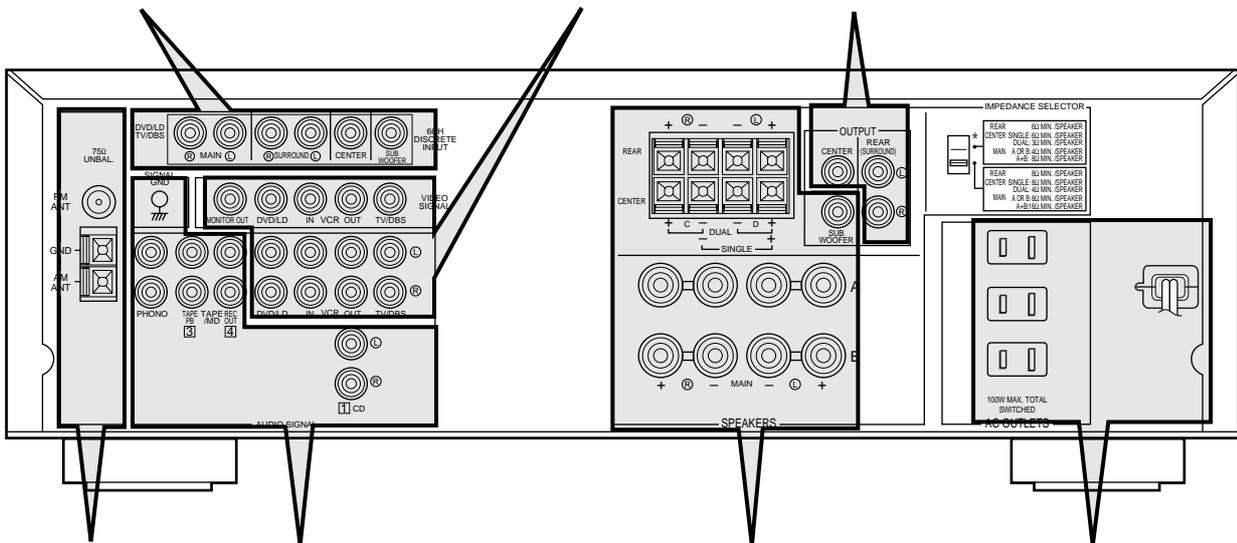
接続図では、接続コードを次のように示します。



6チャンネルディスクリート  
音声出力対応機器の接続  
11ページ参照

ビデオ機器の接続  
10ページ参照

他のアンプとの接続  
13ページ参照



アンテナの接続  
14ページ参照

オーディオ機器の接続  
9ページ参照

スピーカーの接続  
12ページ参照

電源プラグ、電源供給コンセントの接続  
すべての接続が終わってから接続します。  
15ページ参照

## オーディオ機器の接続

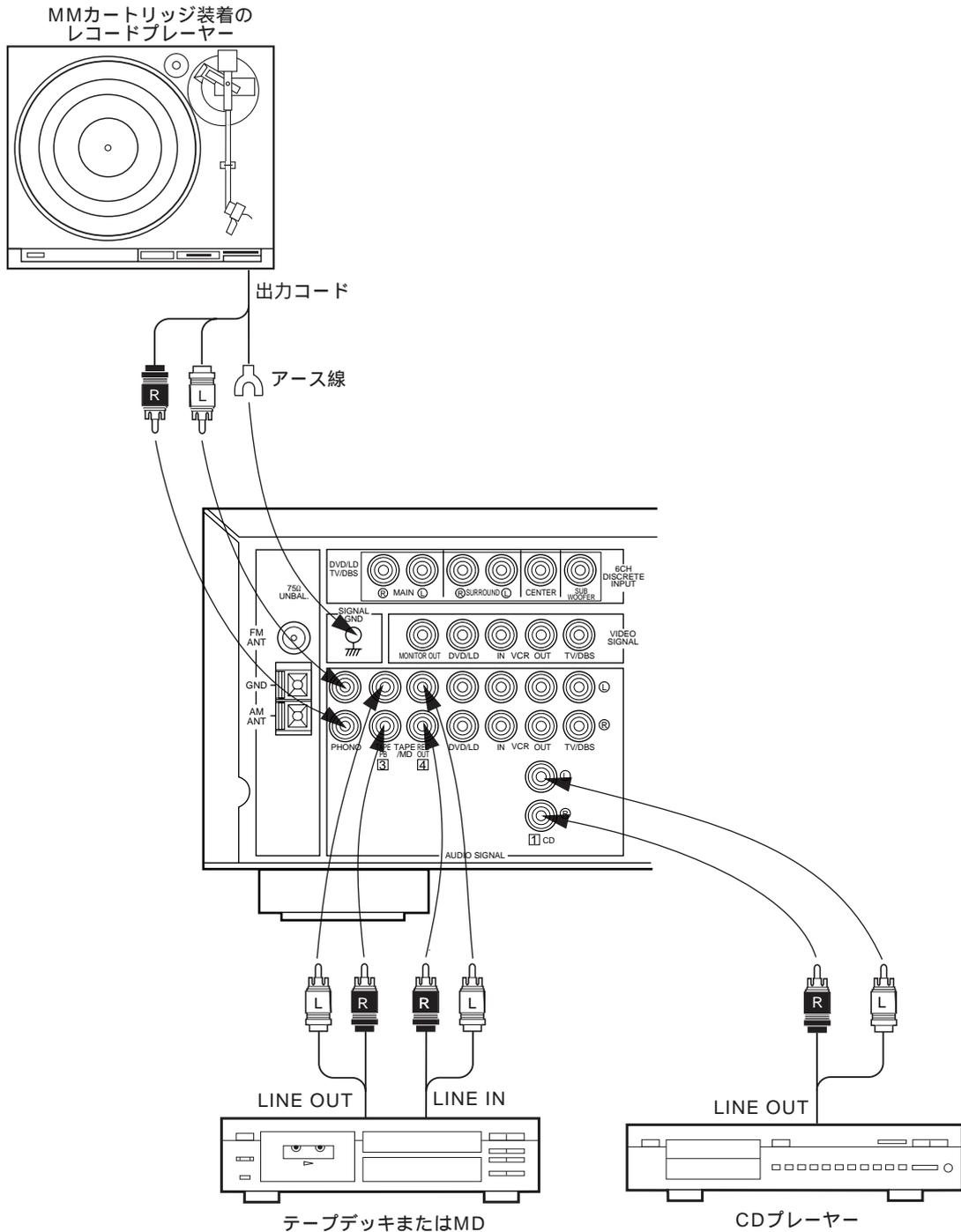
右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。

### フォノ PHONO端子について

MMカートリッジまたは高出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続します。

低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続するときは、昇圧トランスあるいは、MCヘッドアンプが別途必要になります。

レコードプレーヤーによっては、まれにアース線を接続しない方がハムノイズが減少する場合があります。



# 接続のしかた

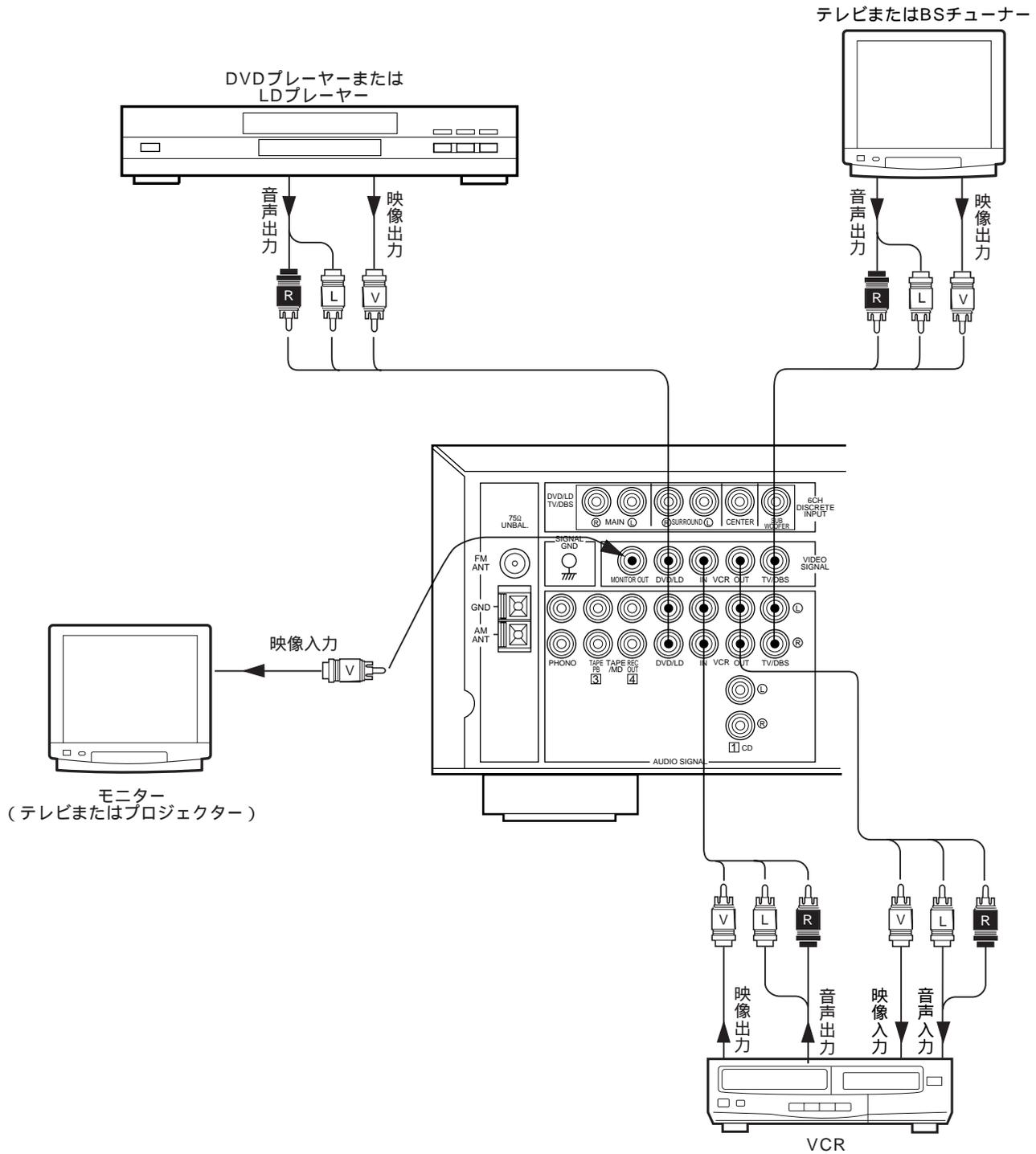
## ビデオ機器の接続

### オーディオ シグナル AUDIO SIGNAL端子の接続

右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。

### ビデオ シグナル VIDEO SIGNAL端子の接続

入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。



10ページの接続により、本機に搭載されている8種類の音場プログラム（CINEMA DSPも含めて）をお楽しみいただけます。DVDプレーヤーなどがディスクリート音声出力対応機器の場合は（ヤマハDVD-1000など）、さらにドルビーデジタル（AC-3）などのディスクリート6チャンネル音声をお楽しみいただけます。10ページの接続に加えて次のように接続してください。

## ドルビーデジタル(AC-3)ディスクリート 5・1チャンネル出力対応機器の接続

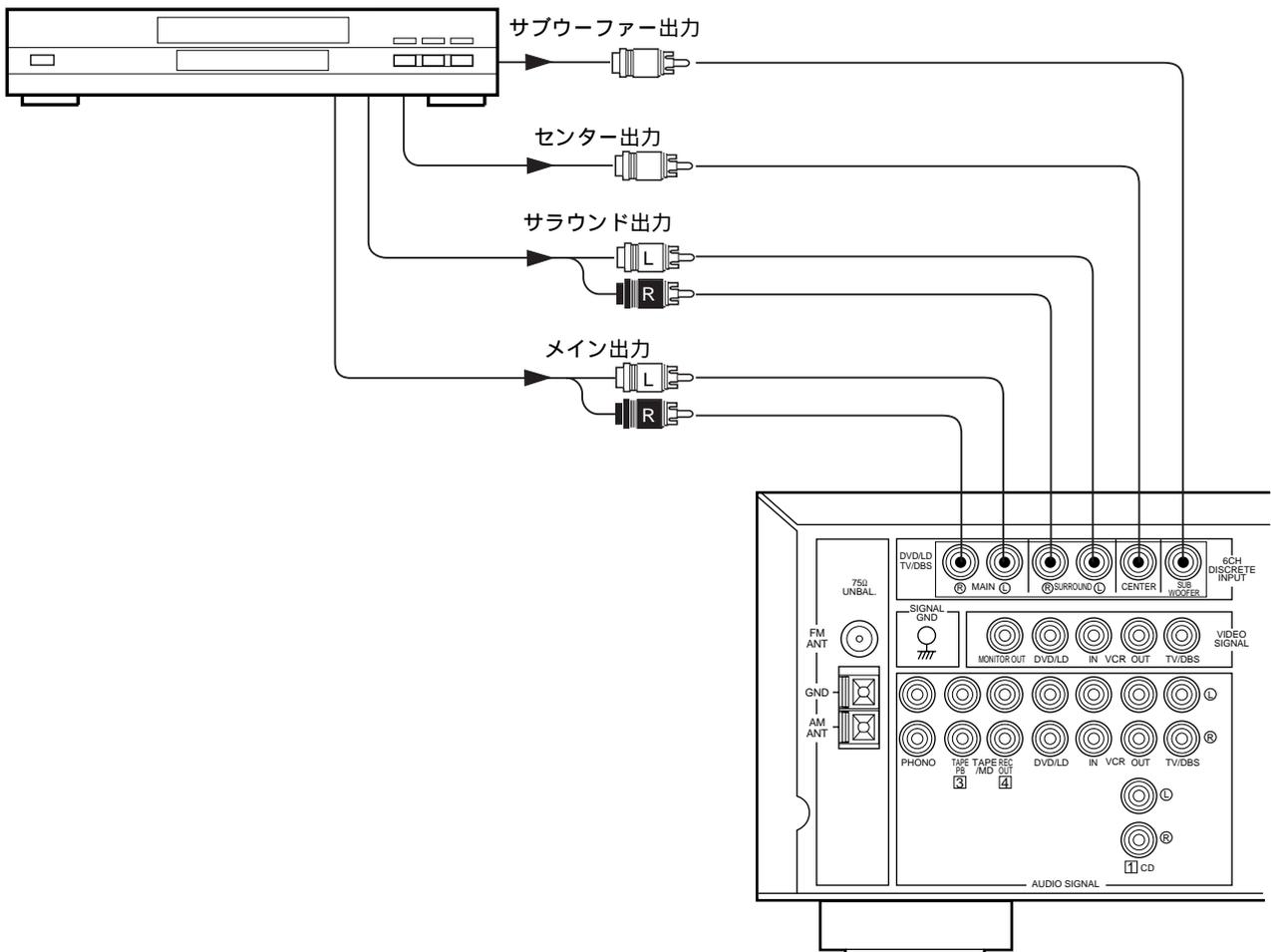
ドルビーデジタル（AC-3）デコーダ内蔵DVDプレーヤー、デジタルプロセッサなど、多チャンネルのディスクリート音声出力端子（アナログ）を本機の6チャンネルディスクリート音声入力端子に接続します。

ハイビジョンテレビやMUSEデコーダのディスクリート音声（3・1）も接続できます。ハイビジョンテレビ（デコーダ）の音声L、R出力およびセンター出力を本機のMAIN L、R INPUT端子およびCENTER INPUT端子に接続します。サブウーファー出力がある場合は、本機のSUB WOOFER INPUTに接続します。サラウンド出力がステレオの場合は、市販のピンプラグケーブルを使って、本機のSURROUND L、R INPUT端子に接続します。（サラウンド出力がモノラルの場合は、市販の1P 2P分岐ピンプラグケーブルを使って本機のSURROUND L、R INPUT端子に接続します。）

### ご注意

6CH DISCRETE INPUT端子に接続した機器を再生するときは、必ずセンタースピーカーを設置し、アンプ内蔵サブウーファーをSUB WOOFER OUTPUT端子に接続してください。

ドルビーAC-3対応5・1CH音声出力端子装備のDVDプレーヤー、デジタルプロセッサなど



# 接続のしかた

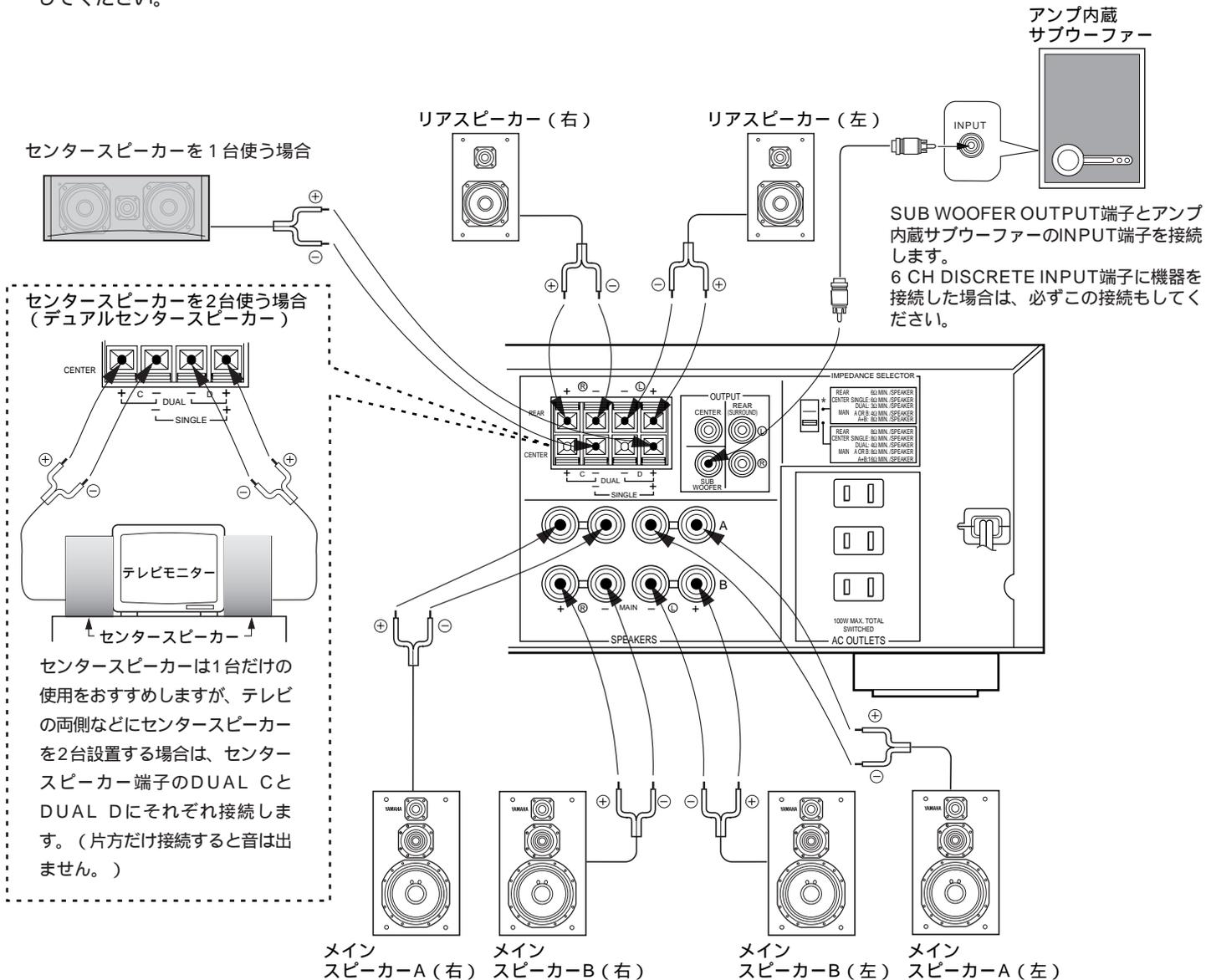
## スピーカーの接続

接続する際、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、“+”（赤）、“-”（黒）を確認して正しく接続してください。極性（+、-）を間違えて接続した場合、不自然な再生音となることがあります。

スピーカーコードの接続は、ショートしないように注意してください。ショートした状態で電源を入ると、保護回路が働き電源が切れる場合があります。このような場合は、電源コードを抜いてから、ショートしている箇所の接続をやり直してください。

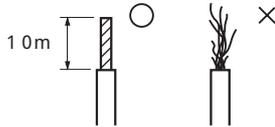
### ご注意

スピーカーの接続をする前に、背面のIMPEDANCE SELECTORを、使用するスピーカーシステムのインピーダンスに応じて必ず切り換えてください。7ページの「スピーカーインピーダンスについて」をご覧ください。



## スピーカーコードの接続

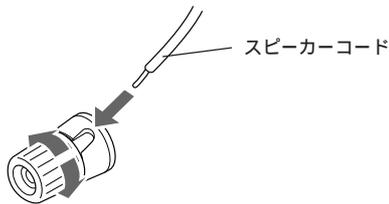
1 スピーカーコードの先端の絶縁部を 10 mm 位はがし、芯線がバラけてショートのしないよう、指でしっかりよじります。



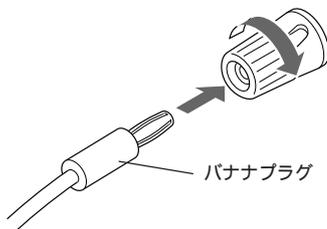
2 スピーカーコードをスピーカ端子に接続します。

メインスピーカー端子：

スピーカ端子を左に回してゆるめ、コードを穴に差し込み、端子を右に回して締めつけます。芯線部分が穴からはみ出していないかを確認してください。

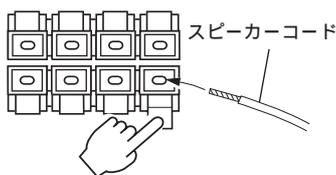


市販のパナプラグを使用する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。



センター/リアスピーカー端子：

レバーを押してスピーカー端子の穴に差し込み、レバーを離します。コードがロックされます。確実にスピーカーコードがロックされたか、コードを軽く引っ張って抜けないことを確認してください。



## 他のアンプとの接続

センター/リアスピーカー出力のパワーアップを図りたいときや、お手持ちのアンプを使用したいとき、本機のOUTPUT端子に外部パワーアンプ（プリメインアンプ）を接続してください。また、前ページのアンプ内蔵サブウーファースの接続のかわりに、SUB WOOFER OUTPUT端子に外部パワーアンプを接続してサブウーファー（アンプ内蔵型ではない）を駆動することもできます。

### センター アウトプット CENTER OUTPUT 端子

センターチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプ（プリメインアンプ）と接続して、センタースピーカーを駆動したい場合に使用します。

### リア アウトプット REAR OUTPUT 端子

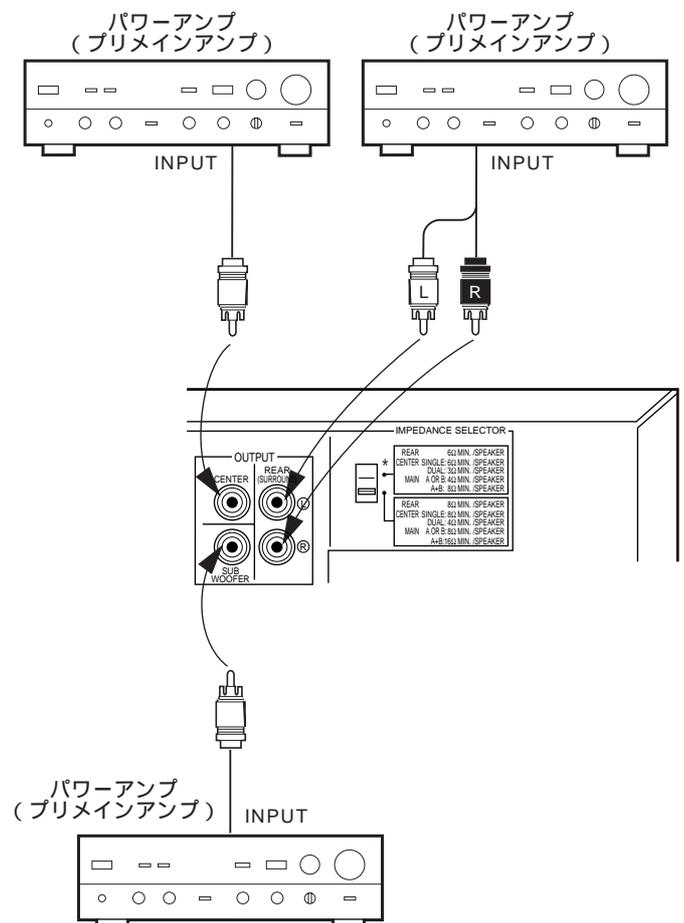
リアチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプ（プリメインアンプ）と接続して、リアスピーカーを駆動したい場合に使用します。

### サブウーファー アウトプット SUB WOOFER OUTPUT 端子

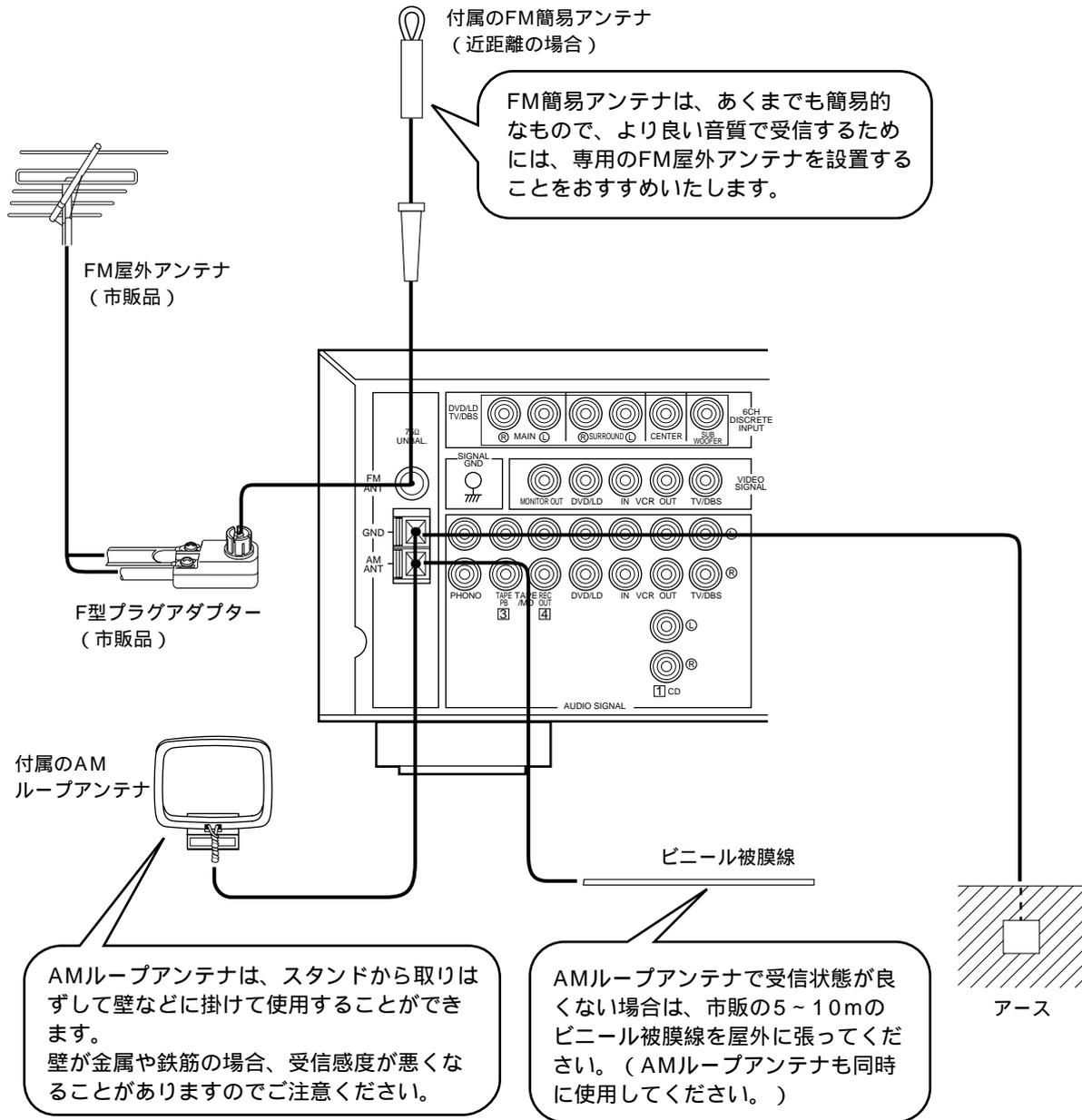
メインチャンネルとセンターチャンネルの200Hz以下の信号を出力します。外部パワーアンプ（プリメインアンプ）と接続して、サブウーファーを駆動したい場合に使用します。

### メモ

OUTPUT端子の出力レベルは本体のVOLUMEツマミまたはリモコンのVOLUMEキーにより、音量と同様に調節されます。



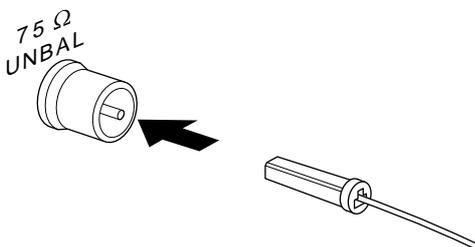
## アンテナの接続



### FMアンテナの接続

#### FM簡易アンテナの接続

付属のFM簡易アンテナは、電波状況が非常に良い地域で受信する場合にご使用ください。



#### FM専用屋外アンテナについて

FM放送を良好に受信するためには、FM専用屋外アンテナを設置することをおすすめします。

また、FM電波は受信する地域の状況(放送局からの距離、ビルや山のかげなど)によって、良好な受信ができにくい場合があります。ご使用になる地域の状況に合ったアンテナを設置してください。

FM専用屋外アンテナは、自動車のイグニッションノイズの影響を受けないよう、道路から離れたなるべく高いところに設置してください。

#### FM専用屋外アンテナの接続

アンテナの接続には75 同軸ケーブルをご使用ください。また、アンテナと本機の設置場所がかなり離れている場合は、ケーブル伝送中の電波減衰が少ない5C2Vケーブルの使用をおすすめします。

FM屋外アンテナを接続したときは、付属のFM専用簡易アンテナは接続しないでください。

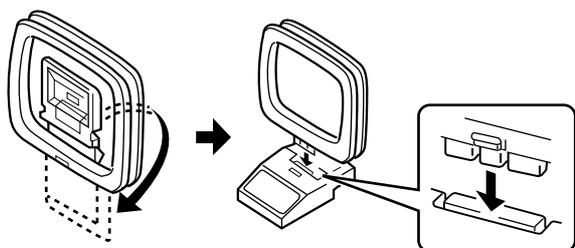
電波状況が非常に良い地域ではTVのVHFアンテナを本機のFM用アンテナとして使用することができます。アンテナをTV受像機と本機で共用する場合は、市販の分配器をご使用ください。詳細は分配器の取扱説明書をご覧ください。

### ご注意

近くに放送局があるような強電界地域では、多素子のアンテナやブースター（増幅器）を使うと、電波が強すぎて、かえって良好な受信ができなくなることがあります。

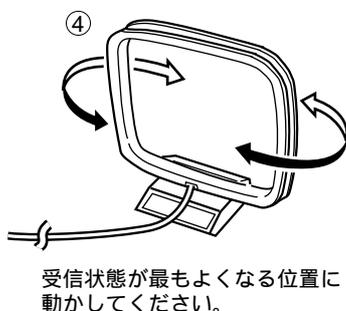
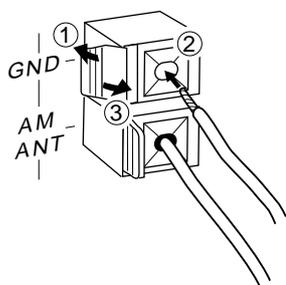
## AMループアンテナの組立と接続

### 組み立て



付属のAMループアンテナをAM ANT端子に接続します。

- ① AM ANT端子とGND端子のレバーを左側に倒します。
- ② AMループアンテナのコードをAM ANT端子とGND端子に差し込みます。（コードに極性はありません。）
- ③ レバーを右側に戻します。コードを軽く引っ張って抜けないことを確認してください。
- ④ アンテナを左右に回し、受信状態が最も良くなる方向に向けます。



受信状態が最もよくなる位置に動かしてください。

### ご注意

AMループアンテナは本機から離して設置してください。AMループアンテナで良好な受信ができない場合は、AM ANT端子に5mから10mのビニール被覆線を接続し、窓際から屋外に張ってください。（このときAMループアンテナも必ず接続しておいてください。）

## アースについて

通常の受信では必要ありませんが、雑音防止と安全のために地中アースを取ることをおすすめします。

アースは市販のアース棒が銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

GND端子に2本以上のコードを接続する場合は、よじて1本にまとめてください。

### ご注意

アースを水道管やガス管に取り付けることは、感電や火災などの危険防止のため絶対おやめください。

## 電源プラグ、電源供給コンセントの接続

### 電源プラグ

電源プラグは、すべての機器の接続が完了するまで、コンセントに差し込まないでください。

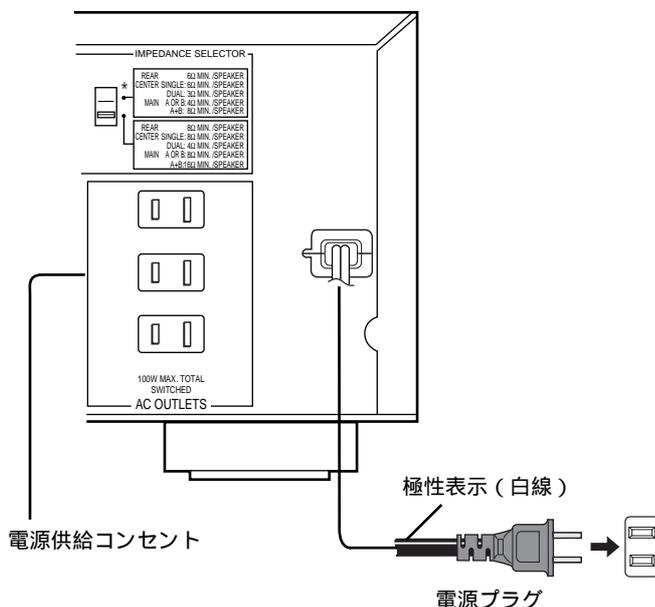
家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントにプラグを差し込みます。本機の消費電力は、IMPEDANCE SELECTORを上側に設定した場合は160W、下側に設定した場合は180Wです。本機の電源コードには電源トランスの巻始めが極性表示（白線）されています。プラグを差し替えて音質が変わるようでしたら、お好みの極性でお使いください。

スイッチド エージア アウトレット

### SWITCHED AC OUTLETS (電源供給連動コンセント)

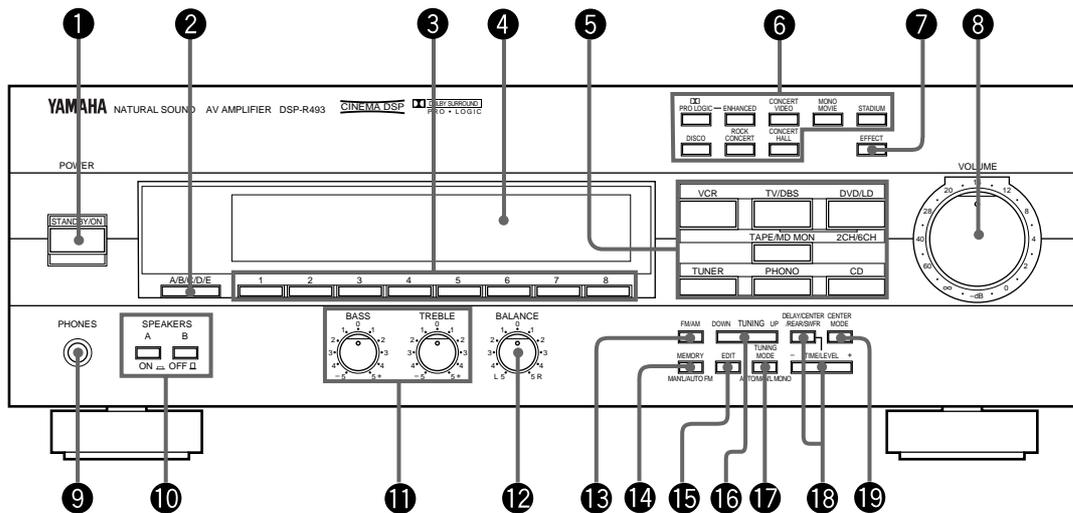
本機のPOWERスイッチと連動しており、3つのコンセントに合計消費電力が100Wまでのオーディオ機器に電源を供給することができます。

また本機コンセントの長い方の穴が電源トランスの巻始め側になっています。接続するオーディオ機器が極性表示されている場合には、極性を合わせて差し込んでください。



# 各部の名称とはたらき

## フロントパネル



- 1** パワー スタンバイ/オン  
POWER STANDBY/ONスイッチ  
本機の電源を入/切します。  
電源を入れるときは、ボリュームを絞ってください。  
電源が入っても、数秒間は本機のミュート機能の働きにより音は出ません。
- 2** A/B/C/D/Eキー  
プリセットグループ(A、B、C、D、E)を選びます。キーを押すごとに、A B C D E Aの順に切り換わります。
- 3** プリセットステーション番号キー(1～8)  
プリセットステーション番号を選びます。
- 4** ディスプレイ  
入力ソース名や設定状態を表示します。(17ページ参照)
- 5** インプットセレクター  
再生したいソースを選択します。(22ページ参照)  
TV/DBSまたはDVD/LDは押すたびに2CH/6CH入力切り換わります。AC-3のソフトまたはハイビジョンなどの多チャンネルを再生する場合は、6CH入力にします。
- 6** 音場プログラムキー  
8種類の音場プログラムを選択します。(25ページ参照)
- 7** エフェクト  
EFFECTキー  
音場プログラムの効果をON/OFFします。OFFにすると、通常のステレオ再生になります。(センタースピーカーとリアスピーカーから音は出ません。)
- 8** ボリューム  
VOLUMEツマミ  
全体の音量を調節します。右に回すほど音量が大きくなります。
- 9** ホーンズ  
PHONES端子  
ヘッドホン接続します。メインチャンネルの音が出されません。ヘッドホンだけでお聞きになる場合、SPEAKERSスイッチ(A・B)をOFFにし、EFFECT OFFにしてください。
- 10** スピーカーズ  
SPEAKERSスイッチ  
本機に接続されたメインスピーカーA・Bを選択します。A・B両方のスイッチをONにすると、A・B両方のメインスピーカーから音が出ます。  
SPEAKERSスイッチをON/OFFするときは、VOLUMEを絞ってください。
- 11** トーンコントロール  
メイン左右チャンネルの低音(BASS)・高音(TREBLE)を調節します。  
トーンコントロール(BASS・TREBLE)は、メイン左右チャンネルだけに働き、センターおよびリアチャンネルには働きません。
- 12** バランス  
BALANCEツマミ  
メイン左右チャンネルの音量バランスを調節します。L側に回すほど、R側の音が小さくなり、R側に回すほど、L側の音が小さくなります。通常は0位置にセットしておきます。
- 13** エフエム/エーエム  
FM/AMキー  
FMとAMを切り換えます。
- 14** メモリー マニュアル/オートエフエム  
MEMORY (MAN'L/AUTO FM) キー  
放送局をメモリー(プリセット)するときに使います。3秒以上押し続けると、FM放送局を自動的にプリセットするオートプリセット選局になります。
- 15** エディット  
EDITキー  
プリセットした局の場所を入れかえるときに使います。

16 <sup>チューニング ダウン/アップ</sup> TUNING DOWN/UPキー

DOWN:

オート選局モードでは、低い周波数に向かって放送局を受信するまで探します。

マニュアル選局モードでは、1回押すごとに1ステップずつ周波数が下がり、押し続けると連続して下がります。

UP:

オート選局モードでは、高い周波数に向かって放送局を受信するまで探します。

マニュアル選局モードでは、1回押すごとに1ステップずつ周波数が上がり、押し続けると連続して上がります。

17 <sup>チューニングモード オート/マニュアルモノ</sup> TUNING MODE (AUTO/MAN'L MONO) キー

オート選局モード (AUTOインジケータ点灯) とマニュアル選局モード (AUTOインジケータ消灯) を切り換えます。

オート選局モード (AUTO):

チューニングキーを押すと自動的に受信するまで探します。

マニュアル選局モード (MAN'L MONO):

チューニングキーを1回押すと1ステップずつ (押し続けると連続して) 周波数が変わります。オート選局モードで受信できない電波の弱い局も受信できます。マニュアル選局では、ステレオ放送を受信してもモノラルになります。

18 <sup>ディレイ センター リア サブウーファー</sup> DELAY/CENTER/REAR/SWFRキー

ディレイタイム、センターチャンネル、リアチャンネル、サブウーファースの各調節モードを切り換えます。

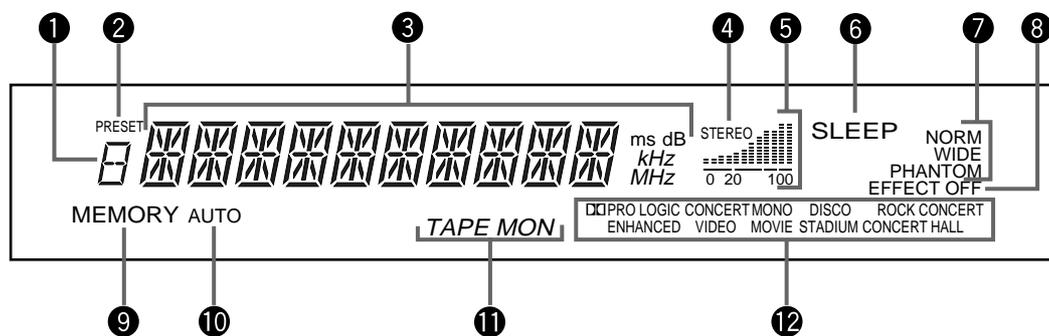
<sup>タイム レベル</sup> TIME/LEVELキー

DELAY/CENTER/REAR/SWFRキーで選んだモードのレベルを調節します。キーの+側を押すと値が増え、-側を押すと値が減ります。

19 <sup>センター モード</sup> CENTER MODEキー

センタースピーカーに合わせて、センターモードを設定します。(20ページ参照)

## ディスプレイ



1 プリセットグループインジケータ  
プリセットステーションのグループ (A, B, C, D, E) を表示します。

2 <sup>プリセット</sup> PRESETインジケータ  
放送局をプリセットしたり、プリセットした局を受信すると点灯します。

3 インフォメーションディスプレイ  
音場プログラムの名称、放送局の受信周波数、入力ソースの名称など、さまざまな操作情報を表示します。

4 <sup>ステレオ</sup> STEREOインジケータ  
ステレオで受信すると点灯します。

5 シグナルクオリティインジケータ  
受信している放送電波の強さを表示します。

6 <sup>スリープ</sup> SLEEPインジケータ  
スリープタイマーをセットすると点灯します。

7 センターモードインジケータ  
CENTER MODEキーで選んだセンターモードが点灯します。

8 <sup>エフェクト オフ</sup> EFFECT OFFインジケータ  
EFFECTキーを押して音場効果を切ると点灯します。

9 <sup>メモリー</sup> MEMORYインジケータ  
MEMORYキーを押すと点滅します。

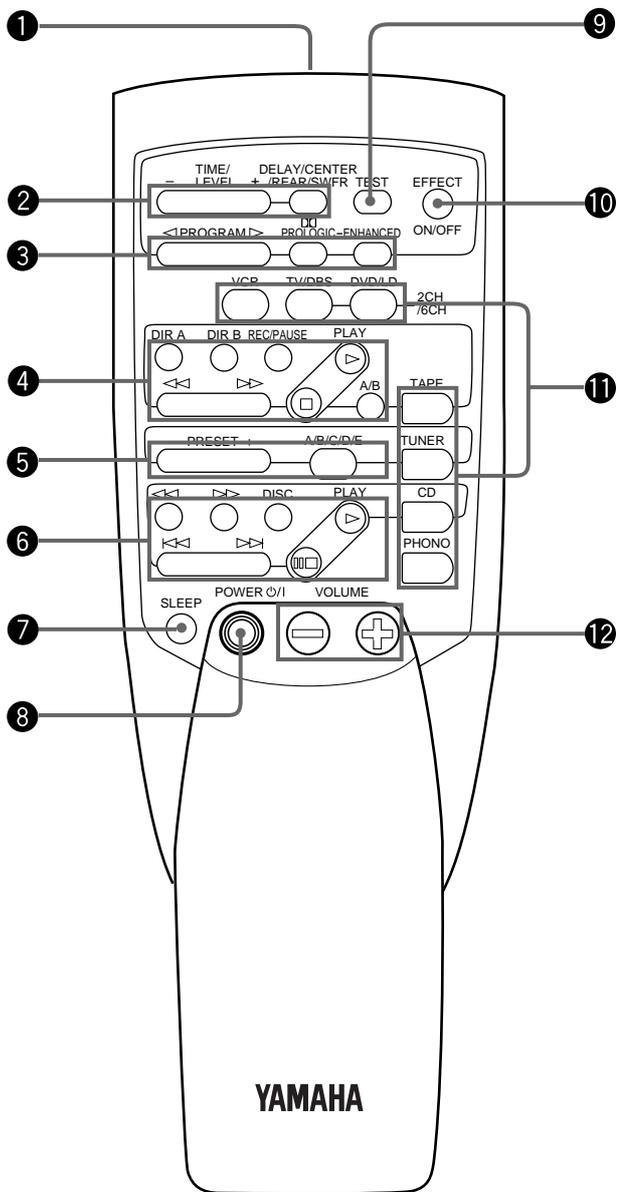
10 <sup>オート</sup> AUTOインジケータ  
チューニングモードキーでオート選局モードを選ぶと点灯します。

11 <sup>テープモニター</sup> TAPE MONインジケータ  
インプットセレクターのTAPE/MD MONを押すと点灯します。

12 音場プログラムインジケータ  
音場プログラムキーで選んだ音場プログラム名が点灯します。

# 各部の名称とはたらき

## リモコン



① 送信窓  
リモコンのコントロール信号を送信します。

② ディレイ センター リア サブウーファー  
DELAY/CENTER/REAR/SWFRキー  
ディレイタイム、センターチャンネル、リアチャンネル、サブウーファースの各調節モードを切り換えます。

③ タイム レベル  
TIME/LEVELキー  
DELAY/CENTER/REAR/SWFRキーで選んだモードのレベルを調節します。キーの+側を押すと値が増え、-側を押すと値が減ります。

④ 音場プログラムキー  
8種類の音場プログラムを選択します。(25ページ参照)

④ テープデッキ操作キー  
ヤマハのリモートコントロール対応のテープデッキを操作するキーです。テープデッキのリモコンに表示されているキー名称と同じ働きをします。

REC/PAUSE : 録音待機状態になります。

DIR A : デッキAのテープ走行方向を選択します。  
(または、オートリバーステープデッキのテープ走行方向を選択します)

DIR B : デッキBのテープ走行方向を選択します。

PLAY▷ : 再生を始めます。

□ : 再生または録音を停止します。

◀◀ : ◀◀方向に早送りします。

▶▶ : ▶▶方向に早送りします。

A/B : ダブルデッキのデッキAとデッキBを切り換えます。

⑤ チューナー操作キー  
ヤマハのリモートコントロール対応のチューナーを操作するキーです。

PRESET : プリセットされた放送局を選局します。

A/B/C/D/E : プリセットのグループ(A/B/C/D/E)を選択します。

⑥ シフト  
CDプレーヤー操作キー  
ヤマハのリモートコントロール対応のCDプレーヤーを操作するキーです。CDプレーヤーのリモコンに表示されているキー名称と同じ働きをします。

◀◀ : 前方向にスピードサーチします。

▶▶ : 後方向にスピードサーチします。

DISC : ディスク番号を選びます。

◀◀ : 曲の頭に戻ります。

▶▶ : 次の曲の頭に進みます。

PLAY▷ : 演奏を始めます。

◻◻ : 一度押すと一時停止、もう一度押すと停止します。

⑦ スリープ  
SLEEPキー  
スリープタイマーを設定します。(30ページ参照)

⑧ パワー  
POWERキー  
本機の電源を入/切します。

⑨ テスト  
TESTキー  
テストトーンを入/切します。(21ページ参照)

⑩ エフェクト オン/オフ  
EFFECT ON/OFFキー  
音場プログラムの効果を入/切します。

⑪ インプットセレクター  
再生したいソースを選択します。(22ページ参照)  
TV/DBSまたはDVD/LDは、押すたびに2CH/6CH入力が切り換わります。AC-3のソフトまたはハイビジョンなどの多チャンネルを再生する場合は、6CH入力にします。

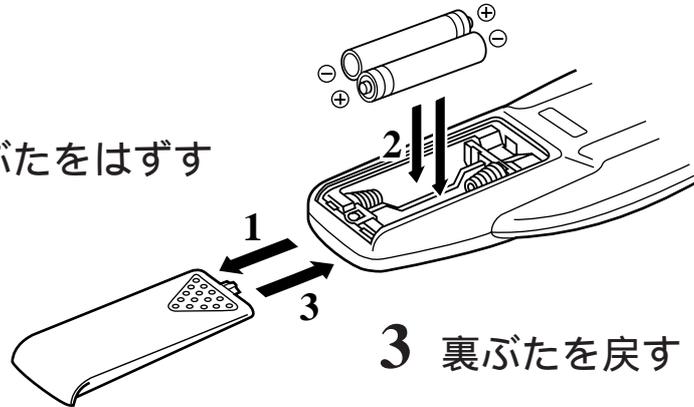
⑫ ボリューム  
VOLUMEキー  
全体の音量を調節します。

# リモコンの準備

## 乾電池の入れかた

### 2 単3乾電池（2個）を入れる

#### 1 裏ぶたをはずす



#### 3 裏ぶたを戻す

## 乾電池のご注意

乾電池は誤った使い方をすると、液もれが起きたり破れつすることがありますので、次の点に特に注意してください。

乾電池のプラス $\oplus$ とマイナス $\ominus$ の向きを表示どおりに正しく入れてください。

新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。

種類のちがう乾電池を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも電圧の異なるものがあります。

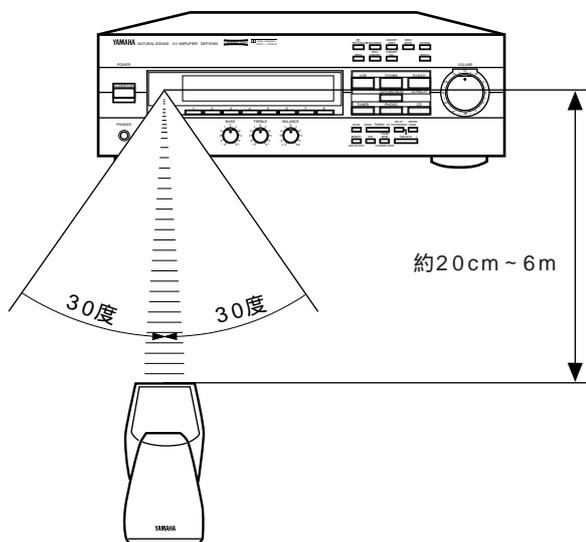
乾電池が使えなくなったり、本機を長い間使わないときは、乾電池を全部取り出してください。

乾電池には充電式と充電式でないものがあります。

乾電池の注意表示をよく見てご使用ください。

液もれが起こったときは、ケースの中についた液をよくふき取ってください。

## リモコンの使用範囲



### リモコン用乾電池の交換時期

リモコン用乾電池の寿命は通常のご使用で約1年間です。

リモコン受信部に近寄らないと動作をしない場合は、乾電池を交換してください。

### リモコン取扱上のご注意

受信部とリモコンの間に障害物があると操作できないことがあります。

リモコンには衝撃を与えないでください。また、水にぬらしたり、温度の高い所には置かないでください。

受信部に直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯など）が当たっているとリモコンが働きにくくなります。

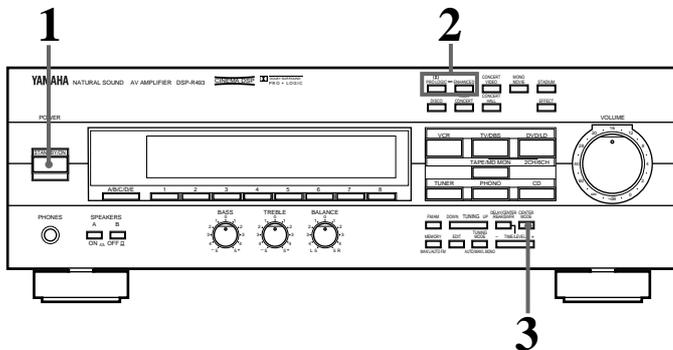
照明または製品本体の向きを変えてください。

他の機器のリモコンを同時に操作すると、動作をしないことがあります。

# 再生の前に

本機の音場処理機能の効果を十分に発揮させるため、ソースを再生する前にスピーカーシステムに合わせて **センターモードの設定** **スピーカーレベルの調節**を行います。

## センターモードの設定



## センターモードについて

ドルビープロロジックやドルビープロロジックエンハンスドの効果を十分に発揮させるため、スピーカーシステムに合わせてセンターモードを選びます。

### NORMAL (ノーマル)

センタースピーカーに比較的小型のスピーカーを使用したときのモードです。センターチャンネルに出力される音のうち100Hz以下の低音は左右のメインスピーカーが再生します。

### WIDE (ワイド)

センタースピーカーにメインスピーカーと同等のスピーカーを使用したときのモードです。センターチャンネルに出力される全帯域の信号をセンタースピーカーが再生します。

### PHANTOM (ファントム)

センタースピーカーを使用しないときのモードです。センターチャンネルに出力される信号は、左右のメインチャンネルに同じレベルで振り分けられ、左右のメインスピーカーが再生します。

### ご注意

入力ソースがTV/DBS 6CHまたはDVD/LD 6CHのときはセンターモードの設定はできません。それ以外の入力を選んでください。

### 1 電源を入れる

POWER



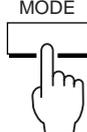
### 2 PRO LOGICキーまたはPRO LOGIC ENHANCEDキーを押す

PRO LOGIC - ENHANCED



### 3 CENTER MODEキーでセンターモードを選ぶ

CENTER MODE



キーを押すごとに、次のように切り換わります。

NORMAL → WIDE → PHANTOM

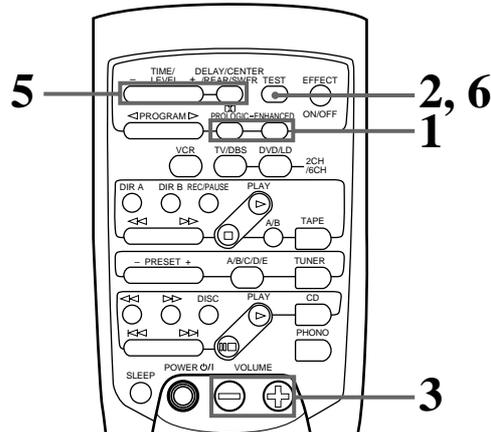
## スピーカーレベルの調節

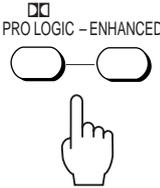
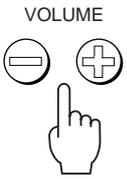
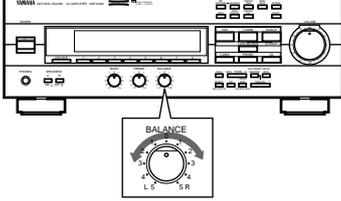
テストトーンを聞きながら、設置した各スピーカーの音量レベルが同じになるように調節します。一度調節すれば、スピーカーや部屋を変えたりしない限り、再度調節する必要はありません。

手順4以外はリモコンで操作します。

実際の視聴位置で調節してください。

本体のトーンコントロールとBALANCEツマミは“0”(フラット)に、音量は最小にしてから操作します。



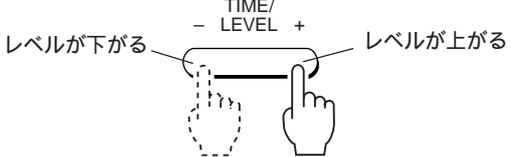
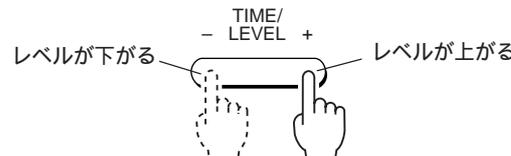
1	<p>PRO LOGICキーまたはPRO LOGIC ENHANCEDキーを押す</p> 
2	<p>TESTキーを押す</p>  <p>各スピーカーからテストトーンが約2秒ずつ聞こえ、次のように表示されます。</p> <pre>     graph LR       A[TEST LEFT (メイン左)] --&gt; B[TEST CNTR (センター)]       B --&gt; C[TEST RIGHT (メイン右)]       C --&gt; D[TEST SUR. (リア)]       D --&gt; A     </pre> <p>センターモードのPHANTOMを選んでいるときは、センタースピーカーからテストトーンは出ません。</p>
3	<p>テストトーンの音量をVOLUMEで調節する</p>  <p>テストトーンが聞こえない場合や、スピーカーの表示と聞こえる位置が違うときは、一度VOLUMEを絞り電源を切ってから、スピーカーの接続を確認してください。</p>
4	<p>BALANCEツマミでメイン左右スピーカーの音量レベルが同じになるように調節する</p> 

**調節できるレベルの範囲**

MINと - 20dBから + 10dBです。調節したレベルが約1秒表示されます。MINのときは音量が最小になります。

**入力がTV/DBS 6CHまたはDVD/LD 6CHのとき**

TESTキーを押すと2CHプロロジックに切り換わり、センター、リアのレベル調節ができます。

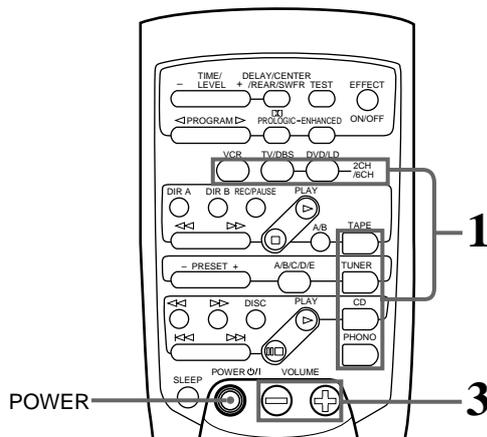
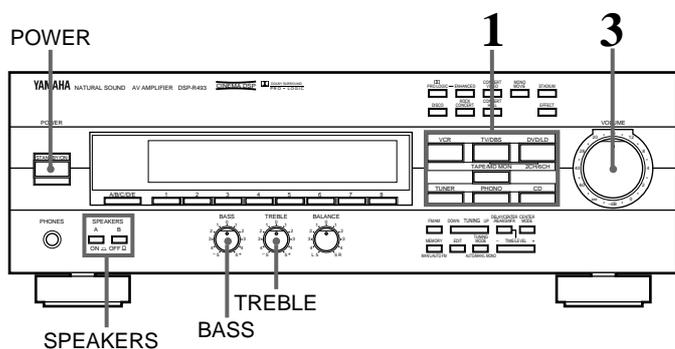
5	<p>センタースピーカーとリアスピーカーの音量を調節する</p> <p>センタースピーカーの音量調節： DELAY/CENTER/REAR/SWFRキーを押してCENTER表示にする</p>  <p>センタースピーカーの音量がメインスピーカーの音量と同じになるようにTIME/LEVELキーで調節する</p>  <p>センターモードがPHANTOMのときはセンターレベルの調節はできません。また、メインスピーカーに振り分けられたセンターチャンネルの音量も調節できません。</p> <p>リアスピーカーの音量調節： DELAY/CENTER/REAR/SWFRキーを押してREAR表示にする</p>  <p>リアスピーカーの音量がメインスピーカーの音量と同じになるようにTIME/LEVELキーで調節する</p> 
6	<p>調節が終わったら、TESTキーを押す</p>  <p>テストトーンが消えます。</p>

**メモ**

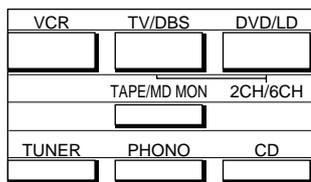
センタースピーカーやリアスピーカーを外部アンプに接続している場合は、それぞれのアンプでもスピーカーの音量調節ができます。センターやリアのレベルを最大にしてもメインの音量より小さい場合は、それぞれのアンプで音量調節してください。

# 再生する

VOLUMEを絞ってからPOWERスイッチを押して電源を入れます。メインスピーカーを2組接続している場合は、SPEAKERSスイッチで使用するスピーカーを選びます。



## 1 インットセクターで再生するソースを選ぶ



### オーディオ系

TAPE/MD MON : テープデッキまたはMD  
 TUNER : 本機のAM/FMチューナー  
 PHONO : レコード  
 CD : CD

### ビデオ系

VCR : ビデオデッキ  
 TV/DBS : テレビまたはBSチューナー (2CH/6CH)  
 DVD/LD : DVDまたはLD (2CH/6CH)

### 2CH入力と6CH入力の切り換え

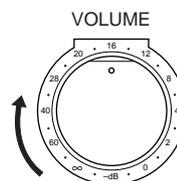
TV/DBSキーまたはDVD/LDキーを押すたびに2CH入力と6CH入力が切り換わります。ドルビーデジタル (AC-3) など、6CH DISCRETE INPUT端子に接続した機器の音を楽しむには6CHを選びます。本機の音場効果を楽しむには2CHを選びます。

例： 2CHのとき DVD/LD  
 6CHのとき DVD/LD 6ch

## 2 ソースの再生を始める

それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

## 3 VOLUMEで音量を調節する



必要ならば、音質をトーンコントロール (BASS、TREBLE) で調節します。次頁をご覧ください。

### BGV機能

ビデオ系ソースを選択した後、オーディオ系ソースを選択すると、映像はそのまま残り、BGV (バックグラウンドビデオ) として楽しむことができます。

### 音場プログラムを選ぶには

音場プログラムキーを押します。詳しくは25ページをご覧ください。

### 通常のステレオ再生

EFFECTキーを押してEFFECT OFF表示にします。リア、センタースピーカーからの音は出ません。

入力をTV/DBS 6CHまたはDVD/LD 6CHにすると本機の音場プログラムは選べません。

### ご注意

TAPE MONが表示されていると、インットセクターで他のソースを選んで音は聞こえませんが、テープデッキを再生しないときはTAPE/MD MONを押してTAPE MON表示を消してください。

REC OUT端子に接続されている機器の電源が切られている場合、聴いているソースの音量が下がったり、歪んだりすることがあります。そのようなときは、接続機器の電源を入れてお使いください。

# 録音/録画について

## 音質調節

### BASS

低音域を調節するツマミで、右(+)に回すほど低音域が強調され、左(-)に回すほど弱まります。

0の位置でフラットな特性になります。

### TREBLE

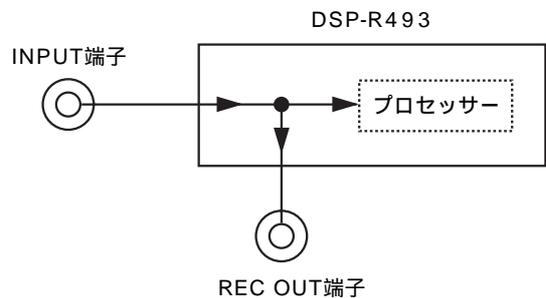
高音域を調節するツマミで、右(+)に回すほど高音域が強調され、左(-)に回すほど弱まります。

0の位置でフラットな特性になります。

トーンコントロール(BASS・TREBLE)は、メイン左右チャンネルだけに働き、センターおよびリアチャンネルには働きません。

トーンコントロール(BASS・TREBLE)でメインチャンネルの音質を極端に強調したり弱めた場合、センターおよびリアとの音のつながりが悪くなりますので注意してください。

本機は、インプットセクターで選んだ入力ソースをそのままREC OUT端子に出力するため、録音するための操作を本機側で行うことはありません。



## 録音レベルの調整

デッキ側で行います。ご使用になるデッキの取扱説明書をご覧ください。

## 録音状態を録音中にチェックするには

3ヘッドのテープデッキで録音する場合、インプットセクターのTAPE/MD MONを押すと録音同時モニターができます。

## 映像と音声を別々のソースから組み合わせて録画したいとき

インプットセクターでビデオ系ソースの映像を選択した後、録音したいオーディオ系ソースを選ぶとBGV(バックグラウンドビデオ)録画をすることができます。

## ご注意

音場効果を加えた音を録音することはできません。

BASS、TREBLE、BALANCEおよびVOLUMEの設定は、録音に影響しません。

本機の電源を切ると、接続した機器間の録音/録画はできません。

録音/録画する際、同一ソースの録音/録画はできません。

(例：VCR IN端子から入った信号は、VCR OUT端子には出力されないため録音/録画することはできません。)

6CH DISCRETE INPUT端子から入った信号は、REC OUT端子に出力されないため録音できません。

# 音場効果を楽しむ

本機は、コンサートホールや映画館で体験するような臨場感をリスニングルームに再現する、デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサを搭載しています。8種類の音場プログラムの中から再生するソースに合ったプログラムを選んでお楽しみください。

## 各音場プログラムの特長

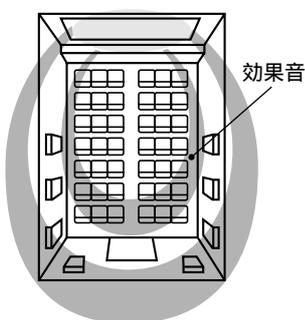
No.	音場プログラム	特長および最適ソース	ディレイタイム
1	ドルビー プロ ロジック DOLBY PRO LOGIC	ドルビーサラウンドでエンコードされたソースの再生用、セパレーションに優れ安定したデコードが得られます。	15～30ms 初期値20ms
2	ドルビー プロ ロジック エンハンスド DOLBY PRO LOGIC ENHANCED	ドルビー プロ・ロジックのサラウンド信号を周囲に広げ、35mm映画館のマルチサラウンドシステムをシミュレーション。	15～30ms 初期値20ms
3	コンサート ビデオ CONCERT VIDEO	ロック/ジャズ等のライブコンサートの雰囲気再現します。	1～100ms 初期値28ms
4	モノ ムービー MONO MOVIE	古典的な映画館の音場を再現します。程よい響きと広がりがあり、懐かしい名画の再生に適しています。	1～100ms 初期値20ms
5	スタジアム STADIUM	野外スタジアムの音場を再現します。	1～50ms 初期値45ms
6	ディスコ DISCO	ホットなディスコの雰囲気再現します。広がり感よりも、集中したエネルギー感に特長があります。	1～100ms 初期値14ms
7	ロック コンサート ROCK CONCERT	ロサンゼルスなどのホットなロックライブハウスの音場効果が得られます。	1～100ms 初期値17ms
8	コンサート ホール CONCERT HALL	響きの豊かな中規模円型ホールの音場効果が得られます。	1～100ms 初期値30ms

実測音場データを採用している為、プログラムによっては効果音の左右バランスが異なるものもあります。プログラムNo.1および2は方向性強調回路を使用するので、ソースがモノラルの場合、センターモードの設定により次のように出力されます。NORMALまたはWIDE：センタースピーカーからのみ音がでます。メイン/リアスピーカーから音は出ません。

PHANTOM：センターチャンネルの音がメインスピーカーから出ません。リアスピーカーから音は出ません。プログラムNo.3～8はセンタースピーカーから音は出ません。6CH入力に本機の音場効果を加えることはできません。

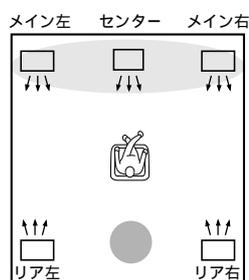
## 映画館の音場とCINEMA DSPの音場について

映画館の音場再生



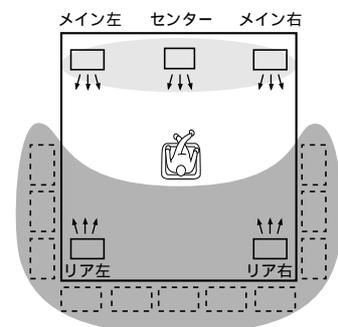
映画の音響再生方式ドルビーステレオは、映画館の広い空間と多数のサラウンドスピーカーが周囲に配された環境で再生することを前提としています。

ドルビープロロジックによる家庭でのサラウンド再生



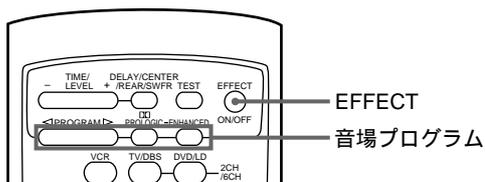
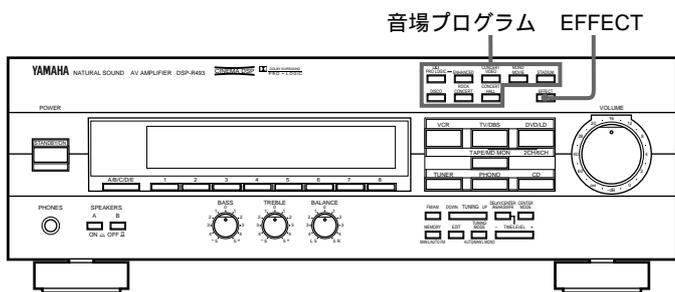
しかし、映画館と再生環境の異なる家庭で、映画のサウンドデザイナーの意図までも再生するには、ドルビープロロジックだけでは十分ではありません。

CINEMA DSPによる音場再生

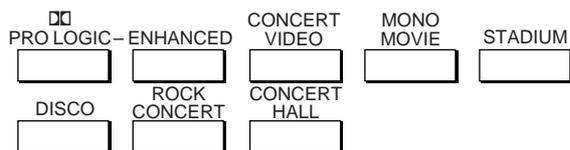


そこで、ドルビープロロジックとヤマハ独自のDSP技術を融合させた「CINEMA DSP」が非常に効果的です。ご家庭でも映画館のような雄大な音場感や臨場感と迫力あふれるシアターサウンドを再生します。ヤマハ CINEMA DSP はドルビーデジタルとヤマハDSP技術の融合により生み出されたプログラムの登録商標です。

## 音場プログラムの選びかた

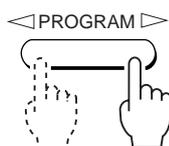


### 本体で操作するとき



選びたい音場プログラムキーを押します。

### リモコンで操作するとき



PROGRAMキーの◀または▶を押して希望の音場プログラムを表示します。  
 PRO LOGICキーまたはENHANCEDキーはそれぞれのプログラムをダイレクトに選びます。

### 音場効果の入/切

EFFECTキーを押すたびに音場効果の入/切ができます。音場効果をオフにするとEFFECT OFFが表示され、音声は2チャンネルステレオで出力されます。

### 音場プログラムのメモリー

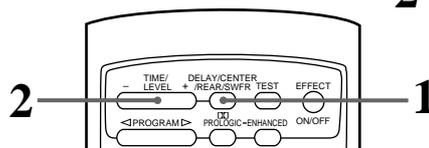
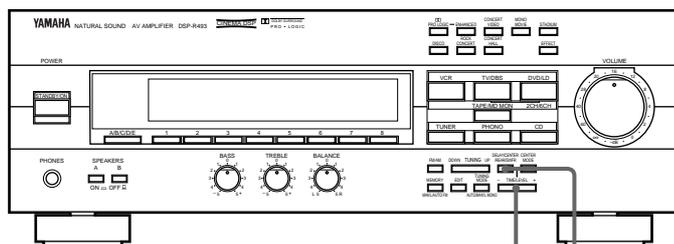
音場プログラムを設定すると、そのとき選んでいるインプットセクターにメモリーされます。音場プログラムを変えない限り、インプットセクターで入力を選ぶと、設定したプログラムになります。

## ディレイタイムについて

メインスピーカーの音が聞こえてから、リアスピーカーからのサラウンド音や効果音が聞こえるまでの時間差をディレイタイム（遅延時間）といいます。ディレイタイムは各プログラムごとに最適値がそれぞれプリセットされているので、通常は初期値のままでも十分お楽しみいただけます。しかし、必要があれば、再生するソースやリスニングルームの状況に応じて調整することができます。ディレイタイムを長めに設定すると、大きめの音場空間が、短めに設定すると、小さめの音場空間が創造されます。

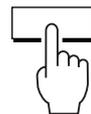
工場出荷時の初期値およびディレイタイムの調節範囲はプログラムごとに異なります。24ページの表をご覧ください。

## ディレイタイムを調節する

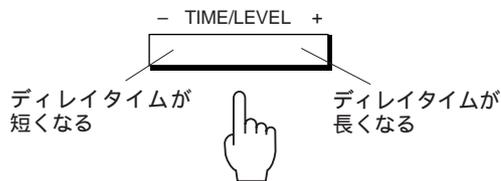


- 1 音場プログラムを選び、DELAY/CENTER/REAR/SWFRキーを押してDELAY表示にする

DELAY/CENTER  
/REAR/SWFR



- 2 TIME/LEVELキーでディレイタイムを調節する



設定したディレイタイムは各プログラムごとに記憶され、次に設定を変更するまでは電源を切っても消えません。

### ディレイタイムを初期値に戻すには

TIME/LEVELキーの“+”または“-”側を押し続けてください。連続して変化するディレイタイムの表示が一旦止まる値が初期値です。

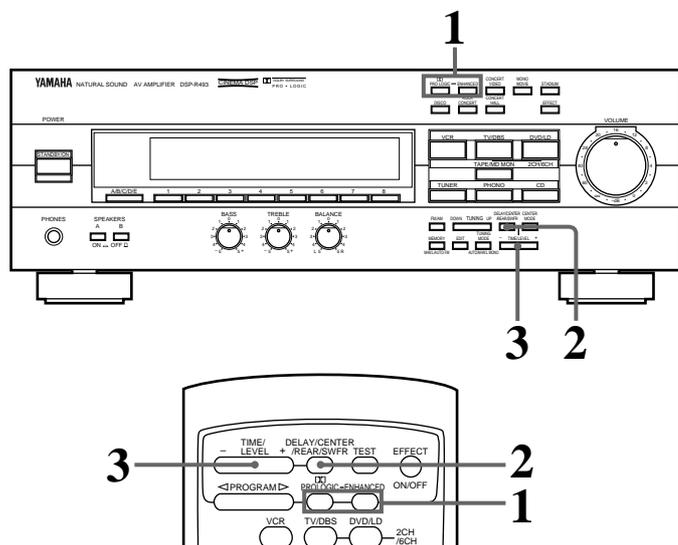
### ご注意

音場プログラムがオフのとき（EFFECT OFF表示）やテストトーンでのレベル調節中はディレイタイムの調節はできません。

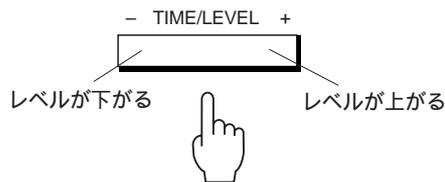
# 音場効果を楽しむ

## センター/リアスピーカー、サブウーファアのレベル調節

再生音を聞いてセンター/リアスピーカーのレベルをさらに調節したい場合は、テストトーンでのレベル調節をしたあとも調節できます。また、サブウーファアのレベル調節ができます。



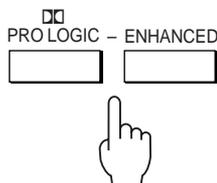
### 3 TIME/LEVELキーでレベルを調節する



キーを押続けると初期値のレベルでいったん止まり、引き続き変化します。

選んだレベルは、すべての音場プログラムに共通して設定されます。

### 1 センターレベルを調節するときは、 PRO LOGICキーまたは PRO LOGIC ENHANCEDキーを押す

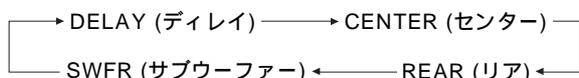


リアレベルは他の音場プログラムでも調節できます。サブウーファアレベルは、音場プログラムを選ばなくても (EFFECT OFFのときでも) 調節できます。

### 2 DELAY/CENTER/REAR/SWFRキーを押して調節するモードを選ぶ



押すごとに次のように切り換わります。



音場プログラムが PRO LOGICまたは PRO LOGIC ENHANCED以外のときは、CENTERは表示されません。

音場プログラムが選ばれていないとき (EFFECT OFF) は、SWFRだけが表示されます。

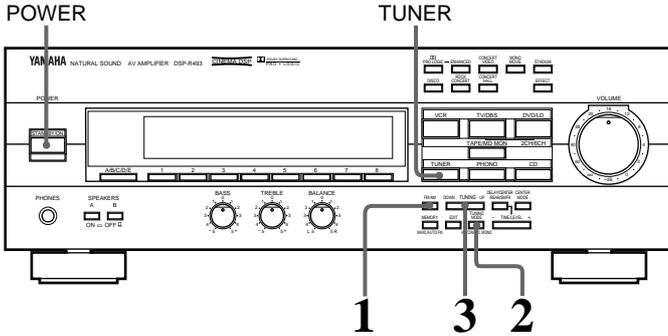
# ラジオを聞く

選局のしかたには、自動的に選局するオート選局と手動で選局するマニュアル選局の2種類があります。電波の強い放送局を受信するにはオート選局が速くて便利ですが、電波の弱い放送局は受信できないことがあります。このようなときはマニュアル選局で受信してください。

電源が入っていることを確認し、インプットセレクターのTUNERを押してから操作します。

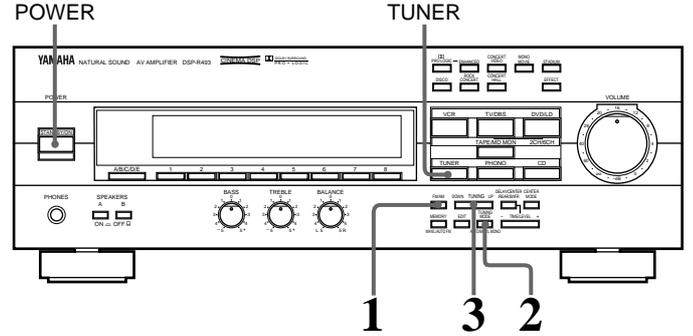
## オート選局

電波の強い放送局を自動的に探して受信します。

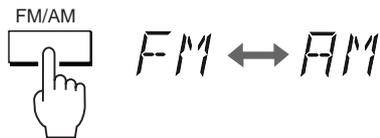


## マニュアル選局

電波の弱い放送局は、マニュアル選局で受信してください。ただし、ステレオ放送は、モノラルになります。

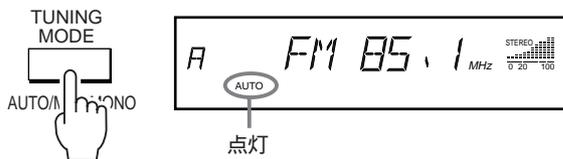


### 1 FM/AMキーでFMまたはAMを選ぶ



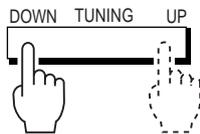
押すたびにFMとAMが切り換わります。

### 2 TUNING MODEキーを押してAUTOインジケータを点灯させる



点灯

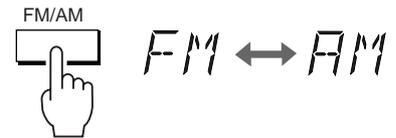
### 3 TUNINGキーのDOWNまたはUPを1回押す



現在の表示周波数よりも低い周波数の放送局を探すときはDOWNを、高い周波数の放送局を探すときはUPを押します。電波の強い放送局があると受信して止まります。

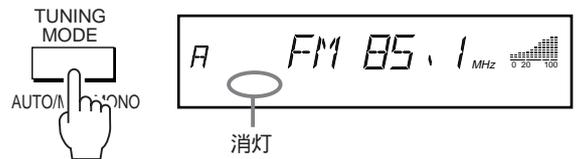
### 4 聞きたい放送局を受信するまで、手順3を繰り返す

### 1 FM/AMキーでFMまたはAMを選ぶ



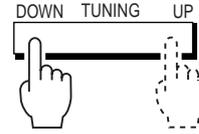
押すたびにFMとAMが切り換わります。

### 2 TUNING MODEキーを押してAUTOインジケータを消す



消灯

### 3 TUNINGキーのDOWNまたはUPを押す



現在の表示周波数よりも低い周波数の放送局を探すときはDOWNを、高い周波数の放送局を探すときはUPを押します。1回押すと周波数が1ステップずつ上下し、押し続けると連続して上下します。

### 4 聞きたい放送局を受信するまで、手順3を繰り返す

#### メモ

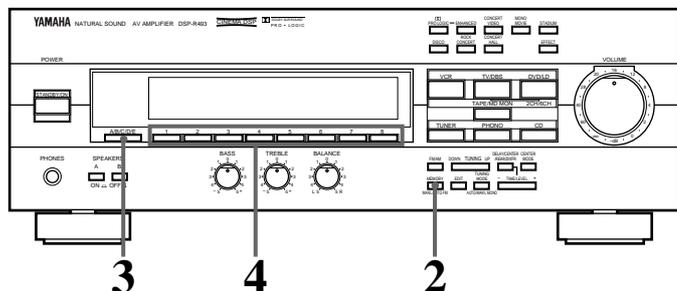
オート選局で受信できないときは、マニュアル選局で受信してください。

ステレオ受信時に雑音が多い場合は、マニュアル選局で受信してください。モノラル受信になりますが、雑音が減ります。

# ラジオを聞く

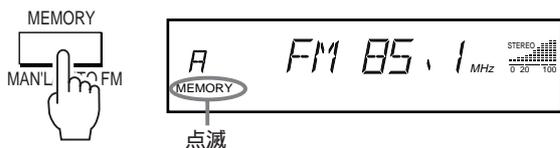
放送局をプリセット(メモリー)しておくと、簡単な操作で選局できます。40局(8局×5グループ)までプリセットできます。電波の弱い局や、よく聞く放送局だけをプリセットするには、マニュアルプリセットを使います。オートプリセットでは、電波の強いFM局だけを自動的にプリセットします。

## マニュアルプリセット



**1** オート選局またはマニュアル選局でメモリーしたい放送局を受信する  
27ページを参照してください。

**2** MEMORYキーを押す



MEMORYインジケータが点滅します(5秒間)。MEMORYインジケータが点滅している間に、以下の手順3、4を行ってください。MEMORYインジケータが消えてしまった場合は、もう一度MEMORYキーを押します。

**3** A/B/C/D/Eキーを押してプリセットグループを選ぶ



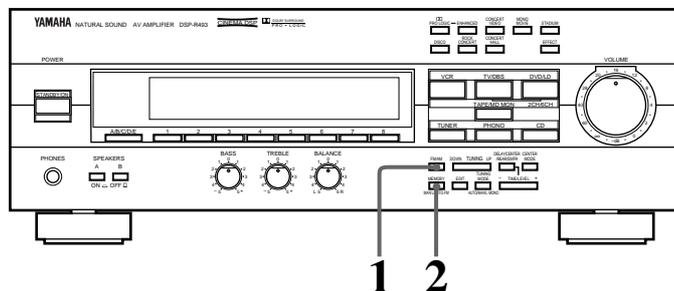
押すごとにA B C D E Aの順に切り換わります。

**4** プリセットステーション番号キー(1~8)を押して番号を選ぶ

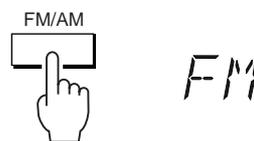


これで1局のプリセットが完了です。手順1~4を繰り返してお好みの局をプリセットしてください。

## オートプリセット



**1** FM/AMキーを押してFMを選ぶ



押すたびにFMとAMが切り換わります。

**2** MEMORYキーを約3秒間押す



現在の表示周波数からオート選局が始まり、受信したFM放送局を次々にプリセットします。プリセットはA1、A2、..... A8、B1 ..... とABC順にE8までメモリーすると自動的に止まり、最後にプリセットした局を受信します。

### メモ

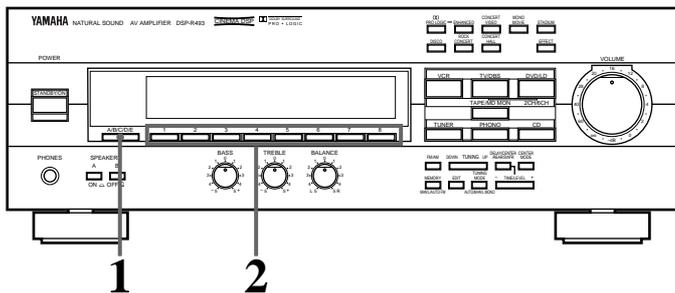
オートプリセットが終了したら、プリセット番号のA1から順に選んで、メモリー内容を確認してください。(29ページ参照) オートプリセットがE8(40局)に満たない場合は、全周波数帯域を一巡して止まります。

オートプリセットは電波の強いFM放送局だけをメモリーします(AM放送局はメモリーできません)。メモリーしたい放送局の電波が弱くてオートプリセットできない場合は、マニュアルプリセットでメモリーしてください。

マニュアルプリセット、オートプリセットで新しい放送局をメモリーすると、前にプリセットした局は消えて新しい放送局になります。

放送局はプリセットしたときの受信モード(ステレオまたはモノラル)と選局モード(オートまたはマニュアルモノラル)と共にメモリーされます。

## プリセット局を受信する

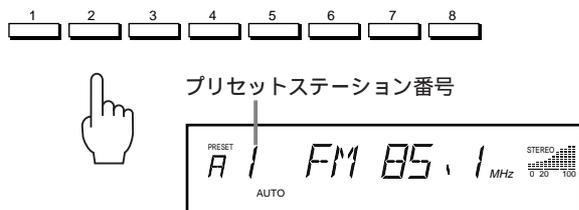


- 1 A/B/C/D/Eキーを押してプリセットグループを選ぶ



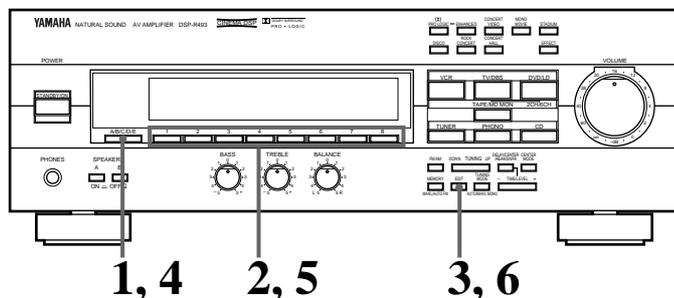
押すごとにA B C D E Aの順に切り換わります。

- 2 プリセットステーション番号キー(1~8)を押して番号を選ぶ



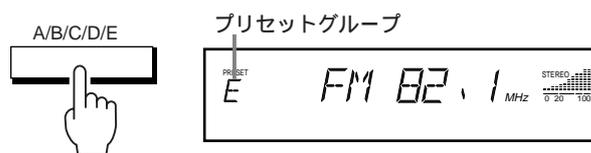
## プリセット局の入れかえ

プリセットした2つの放送局どうしを入れかえることができます。放送局を聞く頻度や、放送局のジャンルなどに応じて入れかえたりして、より操作性の良い使い方ができます。



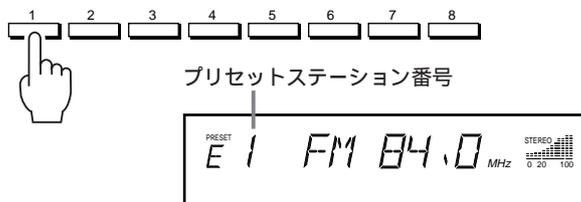
例：E1の放送局をA5に、A5の放送局をE1に入れかえる場合

- 1 A/B/C/D/Eキーを押してプリセットグループのEを選ぶ



押すごとにA B C D E Aの順に切り換わります。

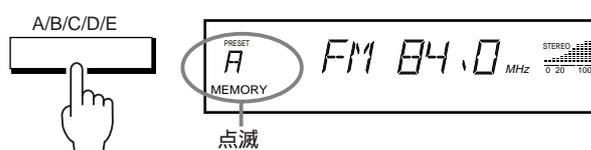
- 2 プリセットステーション番号キーの1を押す



- 3 EDITキーを押す

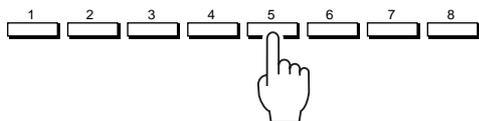


- 4 A/B/C/D/Eキーを押してプリセットグループのAを選ぶ

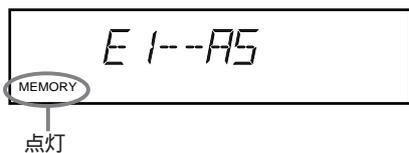
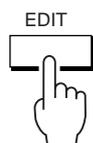


次ページへ続く

## 5 プリセットステーション番号キーの5を押す



## 6 EDITキーを押す



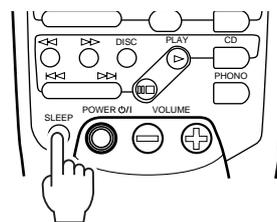
放送局が入れかわったことを示す“E1 -- A5”を表示し、A5の周波数表示になります。

設定した時間が経過すると電源が切れるので、聞きながらおやすみになれます。  
リモコンで操作します。

## 1 再生する

本機のSWITCHED AC OUTLETのコンセントに接続した機器(ソース)を選びます。それ以外の機器を選ぶと、本機の電源は切れますが、ソース側の電源は切れません。

## 2 SLEEPキーを押して時間を設定する



押すごとに次のように切り換わります。  
(単位：分)



設定時間を約3秒間表示したあと入力ソース表示に戻ります。

スリープタイマーは、電源を切ると解除されます。

スリープ動作を途中でやめるには  
SLEEPキーを押して、SLEEP OFF表示にします。

# タイマー再生 / 録音(録画)

市販のオーディオタイマーと組み合わせて、タイマー再生やタイマー録音/録画をすることができます。

ご使用になる機器やオーディオタイマーにより操作方法が異なることがありますので、それらの取扱説明書も併せてご覧ください。

## 接続

<b>1</b>	本機の電源プラグをオーディオタイマーに接続する
<b>2</b>	タイマー再生する機器の電源プラグを本機のAC OUTLETSに接続する  接続する機器の合計消費電力がAC OUTLETSの供給電力(100W)を超えないように注意してください。

## 操作

<b>1</b>	すべての機器の電源をONにする
<b>2</b>	インプットセクターでタイマー再生 / 録音するソースを選ぶ  タイマー再生の場合： 再生する機器をタイマー再生ができるように操作します。  タイマー録音(録画)の場合： 放送局を受信し、デッキなど録音(録画)する機器をタイマー録音(録画)ができるように操作します。
<b>3</b>	本機のVOLUMEを調節する  タイマー録音(録画)で音出しをしない場合は、VOLUMEを絞っておきます。
<b>4</b>	タイマー再生 / 録音(録画)開始時刻および終了時刻をオーディオタイマーでセットする  設定した時刻になるとタイマー / 録音(録画)が開始されます。

## メモリーバックアップについて

本機のPOWERスイッチで電源を切ったり、一時的に電源コードを電源コンセントから抜いても、インプットセクター、ディレイタイム、センターモード、レベル(センター、リア、サブウーファー)、プリセット局などの内容は消えずに、記憶(メモリー)されています。

ただし、2週間以上電源コードをコンセントから外すとメモリー内容が消えることがあります。このような場合には、必要に応じてセンターモード(20ページ)、スピーカーのレベル調整(20ページ)、放送局のプリセット(28ページ)を行ってください。

# 故障かなと思ったら

本機を使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しないとき、あるいは下記以外で何か異常が認められましたら、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点に、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

本機を使用中に強い外来ノイズ(落雷、過大な静電気など)を受けたり、誤った操作をした場合などに、本機が正常に動作しなくなることがあります。このような場合は、本機の電源を切り電源プラグをコンセントから抜き、約30秒後に再びつないで操作し直してください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです	
アンプ部	POWERスイッチを押しても電源が入らない	電源プラグの接続が不完全	電源プラグをコンセントにしっかり差し込み直してください
		スピーカーコードがショートしている	電源コードを抜き、スピーカーの接続をやり直して再度電源コードを差し込みます
	電源が切れて、POWERスイッチを押しても入らない	背面のIMPEDANCE SELECTORの位置がずれている	セレクターを上側または下側に、正確にセットしてください
	音が出ない	インプットセレクターが再生したい入力ソースにセットされていない	再生したい入力ソースのインプットセレクターを押してください
		ボリュームが絞られている	本体またはリモコンのVOLUMEで音量を上げてください
		接続が不完全	接続を確認してください
	片チャンネルの音が出ない	接続が不完全	接続を確認してください
		BALANCEツマミがどちらか一方に回しきられている	BALANCEツマミで左右の音量バランスを調整してください
	ハム音が出る	ピンプラグコードの接続が不完全	ピンプラグをしっかりと差し込み直してください
	メインスピーカーから音が出ない	SPEAKERSスイッチがOFFになっている	SPEAKERSスイッチを押して、ONにしてください
	リア、センタースピーカーから音が出ない	EFFECT OFFになっている	EFFECTキーを押して、EFFECT OFF表示を消してください。
	センタースピーカーから音が出ない	センターモードがPHANTOMになっている	センターモードを正しくセットしてください
		センターレベルが絞られている	センターレベルを上げてください
		音場プログラムNo.3～8を選択している	音場プログラムNo.3～8では、センターの音は出ません
リアスピーカーから音が出ない	リアレベルが絞られている	リアレベルを上げてください	
	音場プログラムNo.1またはNo.2でモノラルソースを再生している	他の音場プログラムを選択してください	

	どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
FM 放送 受信時	バリバリ、ガリガリという雑音がときどき入る	バイクや自動車などのイグニッションノイズ	FM屋外アンテナをできるだけ高く、道路から離れた位置に設置し、同軸ケーブルを使用してください
		サーモスタット付き電気器具の雑音	雑音を出している電気器具に雑音防止器を取り付けてみてください
	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい オート選局ができない	FMステレオ放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力弱い場合に起こる	アンテナの接続を確認してください
			FM屋外アンテナを設置してください
	ステレオ放送受信時、STEREOインジケータが点滅し、雑音が多い	アンテナ入力の不足	FM屋外アンテナを多素子のものにしてみてください
			マニュアル選局してください
	FM屋外アンテナを設置してあるのに音が歪んで受信感が悪い	ある種の電波妨害	受信地域の電解強度に合ったアンテナを設置してください
	ステレオ放送なのにモノラル受信になってしまう	マニュアル選局モードになっている	再度選局してください
プリセット選局ができない	メモリーが消えてしまった	再度プリセットしてください	
AM 放送 受信時	感度が悪い オート選局ができない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が確実でない	AMループアンテナが背面のアンテナ端子に確実に接続してあるか、確認してください
			AMループアンテナの方向をかえてみてください
			マニュアル選局してください
			AM屋外アンテナを張ってみてください
	ジー、ザー、ガリガリなどの連続雑音が出る	空電や雷による雑音、または蛍光灯やサーモスタット付の電気器具による雑音	AM屋外アンテナを張り、アースを完全にとると減少しますが、完全に除去するのは困難です
ブンブン、ヒューヒューなどの雑音が特に夜に出る	他の放送局の電波による干渉 本機の近くでテレビを使用している	対策は困難です テレビから本機を遠ざけてください	
リモコン	リモコンで操作できない	乾電池が消耗している	乾電池を2本とも交換してください
		リモコンと受光部の間に障害物がある	障害物を移動してください
		リモコンの操作範囲から外れている	本体のリモコン受光部に対して6m以内、角度30度以内の範囲で操作してください
		受光部に日光や照明 インバーター蛍光灯・ストロボライトなどが当たっている	照明または本体の向きを変えてください
その他	本機を使用しているとテレビから雑音が出る	本機とテレビの設置場所が近すぎる	本機はデジタル信号を扱いますので、電波を扱う機器と離して設置してください
	本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴いていると、音が歪む	本機の電源が切れている	必ず本機の電源を入れてください
	音場効果を加えた音が録音できない	本機のREC OUT端子に接続した録音機器で、音場効果を加えた音を録音することはできません	

# 参考仕様

## オーディオ部

定格出力(パワーアンプ部)	
メイン(20Hz~20kHz, 0.04%THD, 8 )	70W+70W
センター(1kHz, 0.04%THD, 8 )	70W
リア(1kHz, 0.04%THD, 8 )	20W+20W
実用最大出力(1kHz, EIAJ, 10%THD, 8 )	
メイン	100W+100W
センター	100W
リア	30W+30W
ダイナミックパワー	
8 / 6 / 4 / 2	100W+120W+150W+175W
パワーバンド幅(0.1% THD, 30W, 8 )	10Hz~50kHz
ダンピングファクター	
SPEAKERS A, 20~20kHz, 8	80以上
入力感度/入力インピーダンス	
PHONO MM	2.5mV/47k
CD他	150mV/47k
6CH DISCRETE INPUT	
MAIN	150mV/56k
CENTER	150mV/40k
SURROUND	100mV/40k
SUB WOOFER	150mV/40k
最大許容入力(1kHz)	
PHONO MM (0.5%THD)	100mV
CD他 (EFFECT OFF, 0.5%THD)	2.5V
出力電圧/出力インピーダンス(EFFECT OFF)	
REC OUT	150mV/2.5k
PRE OUT	
CENTER	2V/1.2k
REAR	1.2V/1.2k
SUB WOOFER	4.0V/1.2k
ヘッドホン出力/出力インピーダンス	
入力1kHz, 0.04%THD, 8	0.45V/330
周波数特性(20Hz~20kHz)	
CD他	0±0.5dB
RIAA偏差	
PHONO MM	0±0.5dB

全高調波歪率(EFFECT OFF)	
PHONO MM	
REC OUT, 20Hz~20kHz, 1V	0.02%
CD他 MAIN	
SP OUT, 20Hz~20kHz, 30W/8	0.03%
S/N(EFFECT OFF)	
PHONO MM (5mV入力ショート)	80dB
CD他 (入力ショート)	93dB
残留ノイズ(IHF-A-Network)	
	140µV
チャンネルセパレーション(EFFECT OFF, VOL. -30dB)	
PHONO MM (入力0 ショート, 1kHz)	60dB
CD他 (入力5.1k ショート, 1kHz)	60dB
トーンコントロール	
BASS 可変幅	±10dB (50Hz)
ターンオーバー周波数	350Hz
TREBLE 可変幅	±10dB (20kHz)
ターンオーバー周波数	3.5kHz
トラッキングエラー(0~-60dB)	
	3dB

## ビデオ部

ビデオレベル	1.0Vp-p/75
最大許容入力	1.5Vp-p/75
S/N	50dB
モニターアウト周波数帯域	5Hz~10MHz,-3dB

## DSP部

DOLBY PRO LOGICデコーダ	YAMAHA YSS203 (1個)
RAM	256kbit PS-RAM (1個)
センターモード	ノーマル/ワイド/ファントム
テストトーン	L C R S
プログラム数	
HiFi DSP	6
CINEMA DSP	1
DOLBY PRO LOGIC	1

## 入出力部

入力端子	
音声信号	6 (CD, PHONO, TAPE/MD, DVD/LD, VCR, TV/DBS)
映像信号	3 (DVD/LD, TV/DBS, VCR)
6CHディスクリット音声信号	1
出力端子	
REC OUT	
音声信号	2 (TAPE/MD, VCR)
映像信号	1 (VCR)
OUTPUT	
音声信号	4 (リアL/R, センター, サブウーファー)
ビデオモニター	1
スピーカー出力端子	
メインL/R (A/B)	
センター (デュアル可)	
リアL/R	

## FM部

受信周波数	76.0 ~ 90.0MHz
50dB SN感度 (IHF)	
MONO	1.55 $\mu$ V (15.1dBf)
STEREO	21 $\mu$ V (37.7dBf)
イメージ妨害比	78dB
IF妨害比	76dB
スプリアス妨害比	120dB
AM抑圧比	44dB
キャプチャレシオ	1.5dB
実行選択度	85dB
S/N比 (IHF)	
MONO	80dB
STEREO	75dB
歪率 (1kHz)	
MONO	0.1%
STEREO	0.2%
ステレオセパレーション (1kHz)	50dB
周波数特性 (20Hz ~ 15kHz)	0 $\pm$ 1.5dB

## AM部

受信周波数	531 ~ 1611kHz
実用感度	100 $\mu$ V/m
選択度	32dB
S/N比	50dB
イメージ妨害比	40dB
スプリアス妨害比	50dB
全高調波歪 (1kHz)	0.3%

## チューナーオーディオ部

出力レベル/インピーダンス	
FM100%変調 MOD 1kHz	500mV/2.2k
AM30%変調 MOD 1kHz	150mV/2.2k

## 総合

電源電圧	AC100V 50/60Hz
消費電力	180W (IMPEDANCE SELECTOR設定: 下側) 160W (IMPEDANCE SELECTOR設定: 上側)
ACアウトレット	SWITCHED x 3 TOTAL 100Wmax
寸法(W x H x D)	435 x 151 x 308.5mm
重量	8.7kg
付属品	リモコン 単3乾電池(2本) FM簡易アンテナ(1) AMループアンテナ(1)

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

\* 「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

\* 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

# ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

## 保証期間

お買上げ日より1年間です。

## 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

## 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

## 修理料金の仕組み

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。

技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

## 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## 持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

## 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

## 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境或使用時間等によって大きく異なります。

本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。

摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

### 摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口

AVお客様ご相談センター

TEL (03) 5488 - 5500

## ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内  
TEL (011) 512 - 6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7  
仙台卸商共同配送センター3F  
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒211-0025 川崎市中原区木月1184  
TEL (044) 434 - 3100

東京 (お持ち込み修理のみ取扱い)  
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11  
TEL (03) 5488 - 6625

浜松 〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内  
TEL (053) 465 - 6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2  
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F  
TEL (052) 652 - 2230

大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16  
ヤマハ(株)千里丘センター内  
TEL (06) 877 - 5262

広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14  
TEL (082) 874 - 3787

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック神戸高松店内  
TEL (0878) 22 - 3045

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
TEL (092) 472 - 2134

## 愛情点検



永年ご使用の本機の点検を！

こんな症状はありませんか？

電源コード・プラグが異常に熱い。  
コゲくさい臭いがする。  
電源コードに深いキズか変形がある。  
製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。  
電源を入れても正常に作動しない。  
その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。  
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

## ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部 TEL (053) 460 - 3451

品質保証室 TEL (053) 460 - 3405

住所および電話番号は変更になることがあります。